

リアホナ



ありのままに保つ —
テクノロジーの
試練と祝福、
18, 22 ページ

学校で正直に —
ほんとうのテスト、50 ページ

こどものみなさん、いのる じゅんびは
できていますか、70 ページ



「あなたの行かれる所へ」 サンディー・フレクレトン・ギャゴン画

ナオミの夫が亡くなった後、二人の息子のうち一人はオルパと、もう一人はルツと結婚した。およそ10年後、ナオミの二人の息子も亡くなった。

「オルパはそのしゅうとめに口づけしたが、ルツはしゅうとめを離れなかった。

そこでナオミは言った、『ごらんなさい。あなたの相嫁は自分の民と自分の神々のもとへ帰って行きました。あなたも相嫁のあとについて帰りなさい。』

しかしルツは言った。『あなたを捨て、あなたを離れて帰ることをわたしに勧めないでください。わたしはあなたの行かれる所へ行き、またあなたの宿られる所に宿ります。あなたの民はわたしの民、あなたの神はわたしの神です。』
(ルツ1:14-16)

ルツはとどまり、ボアズと結婚してオベデを生んだ。そしてオベデの家系から王ダビデが生まれた(ルツ2-4章参照)。



リアホナ 2010年6月号

メッセージ

- 4 大管長会メッセージ —
翼に灰色の交じったカナリア
トーマス・S・モンソン大管長
- 7 家庭訪問メッセージ —
聖餐せいさんによって聖約を新たにあらたにする



特集

- 18 正しいインターネット活用法
ふさわしく使えば、インターネットは霊的な内容や、福音を学び教えるための資料によってわたしたちの生活を祝福してくれます。
- 22 現在のことをありのままに
デビッド・A・ベドナー長老
敵対者の最も効果的な策略の一つは、テクノロジーを使ってわたしたちを現実から遠ざけることです。
- 32 カンボジアの末日聖徒たち —
新たな流れに乗る
チャド・E・ファレス
カンボジアはこれまで暗い時代をくぐり抜けて来ました。しかし、カンボジアの末日聖徒の生活の中には福音の光が輝いています。

表紙 写真/デビッド・ストーカー

シリーズ

- 8 小さな、簡単なこと
- 10 わたしたちが信じていること — 永遠の進歩に欠かせない選択の自由
- 12 福音クラシック — 岩の上に建てる
オーソン・F・ホイットニー長老
- 15 キリストについて語る — 変える力
匿名
- 16 教会での奉仕 — 奉仕の召しと任命
ケネス・ジョンソン長老
- 38 末日聖徒の声
- 74 教会のニュース
- 80 また会う日まで — 透けて見える逆境
フェリペ・ウルピナ



42

- 42 人生の使命を果たす時は今**
 ジャン・ピンボロー
 自信と力と信仰をもって未来に立ち向かうことのできる3つの原則を見つけましょう。
- 45 生活の中の福音** ——
 自分の霊性を更新しましょう

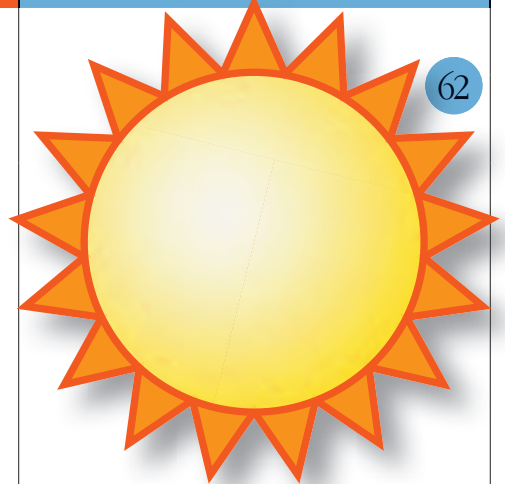


こんげつごう なか
 今月号の中に
 かく
 隠れている
 リアホナを
 さが
 捜しましょう。



50

- 46 神の言葉のきずなで結ばれる**
 デビッド・A・エドワーズ
 このドイツの若い女性たちは、セミナーによって神の言葉への愛がどのように深められたかについて話し合っています。
- 49 ポスター** ——
 準備はできていますか
- 50 カンニングするべきか、せざるべきか**
 シェリー・アン・テラクルーズ
 天の御父があればほど助けてくださったのに、わたしはカンニングすることを選べるでしょうか？
- 52 わたしたちのスペース**
- 54 遠距離の家庭の夕べ**
 ルイス・フェリペ・ピエラ・メソネス
 出張しているときでも、父はいつもわたしたちとの家庭の夕べに参加しました。
- 55 わたしはこのようにして知りました** ——
 あなたはすでに知っています
 エリザベス・スティット
- 56 質疑応答**
 「長いこと祈りと聖文の学習を続けてきましたが、どうしても疑問の答えが得られません。なぜ主はわたしに証を与えてくださらないのでしょうか。」



62

- 58 携帯電話やメールを使うときのマナー**
 リンゼー・ロー
 電子メール、携帯メール、携帯電話を使うのは楽しいです。でも、それらを使うときに、ほかの人の気持ちを傷つけないようにするにはどうしたらいいか知っていますか。
- 60 ジャマイカのリズムに合わせてスキップ**
 メガン・ウィザーズ
 ジャマイカに住む兄と妹の話を書いて、この二人がなぜ信仰が強いのか知りましょう。
- 62 主の側に立つ**
 ティーター・F・ワークトドルフ管長
 あなたは、イエス様のために光となることができます。
- 64 分かち合いの時間** ——
 せいいいは すべてのことのしんりを あかしされます。
 サンドラ・タナー、
 クリスティーナ・フランコ
- 66 わたしたちのページ**
- 68 かべに うつる かげ**
 パトリシア・R・ジョーンズ
 デジレーは、テレビで見たいことは、思いに えいきょうを あたえることを にがいに けいけんによって、学びました。
- 70 ちいさな おともだちへ**

インターネットで得られる追加情報

Liahona.lds.org (英語)

成人

今月号の『リアホナ』はインターネットの使い方についての記事が多く掲載されています。子供と親が**安全にインターネットを使うための資料**など、このテーマに関してさらに情報を得るには、www.gospeletpics.lds.org (英語) にアクセスして「インターネット」(Internet)の項を読んでください。



「奉仕の召しと任命」という記事(16ページ)の中で、七十人のケネス・ジョンソン長老は、召しに任命されることの大切さを説明しています。**いろいろな召しに関する詳しい情報**は www.lds.org (英語) の「教会での奉仕」(Serving in the Church) にアクセスしてください。

今月の「小さな、簡単なこと」(8ページ)は、家族のコミュニケーションについてです。**あなたの家族を強める方法についてもっと知りたい場合は**, www.lds.org/hf (英語) にアクセスし「堅固な家庭を築く」(Building a Strong Family) をクリックしてください。



カンボジアの末日聖徒についての詳しい情報は www.liahona.lds.org (英語) で得られます。

青少年

「**カンニングするべきか、せざるべきか**」(50ページ)で、シェリー・アン・デラクルーズは、学校で高潔さを試された経験について話しています。**正直の大切さについてもっと知りたい場合は**, www.gospeletpics.lds.org (英語) にアクセスして、「正直」(Honesty)の項を読んでください。

こども

携帯電話やメールを使うときのあなたのマナーはどうですか? www.liahona.lds.org (英語) のクイズに答えて、あなたのマナーをチェックしてみましょう。インターネットのそのページで、メディアの使い方に関する動画を見ることができます。



73ページと おなじような むりえや、いろいろな たのしい かつどうがあります。www.liahona.lds.org (えいご) にアクセスして「こどもの かつどう」(Children's Activities) をクリックしてください。

日本語で閲覧するには

インターネットから日本語の教会資料を見つけるには、www.languages.lds.org にアクセスしてください。





トーマス・S・モンソン大管長

翼に 灰色の交じった カナリア

60年近く前、若いビショップとして働いていたときのことです。ワードの会員で、すでに夫を亡くしていたキャスリーン・マッキー姉妹が息を引き取りました。マッキー姉妹はカナリアを3羽飼っていました。2羽は全身が美しい黄色で、マッキー姉妹の友人たちにもられることになっていました。もう1羽の「ビリー」は、やはり黄色なのですが翼に灰色が交じっていました。マッキー姉妹はわたしに次のようなメモを残していました。「ビリーをお家で飼っていただけませんか。美しさでは劣りますが、歌声では一番です。」

マッキー姉妹は翼に灰色が交じったあの黄色いカナリアによく似ていました。美しさに恵まれていたわけでも、気品にあふれていたわけでもなく、子供にも恵まれていませんでした。それでもマッキー姉妹の歌声を聞くと、人々は自分の重荷をもっと進んで負うようになり、自分の務めをもっとうまく果たすことができるのでした。

世の中には翼に灰色の交じった黄色いカナリアが大勢います。残念なのは、ほとんどの人が歌うことを知らないということです。若者の中には、自分が何者であるかを知らず、どのようになれるか、どのようになりたいかさえ分からず、ただひとかどの人物になりたいだけ思っている人がいます。年齢のゆえに腰が曲がってきた人、煩い事に思い悩んでいる人、疑念に満ちている人もいて、能力をほとんど発揮することなく暮らしています。

すばらしい人生を送るには、困難のときに勇気を、失望の

ときに明るい心を、勝利のときに謙虚さを持てるようにならなければなりません。「どうすればそのようになれるのでしょうか」という問いに、わたしはこう答えます。「自分がほんとうは何者であるかを正しく認識することによってです。」わたしたちは生ける神の息子、娘であり、神の形に創造されています。考えてみてください。神の形に創造されているのです。心からそう確信するならば、まったく新しい強さと力を感じないではいられなくなります。

この世では道徳心よりも外見の美しさや魅力が重要視されることがよくあります。しかし、遠い昔に主が預言者サムエルに与えられた勧告が聞こえてきます。「わたしが見るところは人とは異なる。人は外の顔かたちを見、主は心を見る。」(サムエル上 16:7)

救い主は信仰深い人を求めたとき、会堂に出入りする独善的な人々からお選びになりませんでした。そうではなく、カペナウムの漁師の中から召されたのです。疑い深く、無教育で、気性の激しかったシモンが、信仰深い使徒ペテロとなったのです。翼に灰色の交じった黄色いカナリアが、主の全幅の信頼と変わらぬ愛を受けるにふさわしいとされたのです。

救い主は熱意と力にあふれる宣教師を選んだとき、御自分の支持者ではなく敵対

このメッセージから教える

教えるときにしばしば役に立つのは、生徒に特定の物や事柄を探しながら見たり聞いたりしてもらうことです（『教師、その大いなる召し』〔1999年〕55参照）。モンソン大管長のメッセージを家族がよく理解できるよう助けるために、「一緒にメッセージを読んだ後で、学んだことを皆に分ち合ってもらいます」と前もって伝えておくことよいでしょう。記事の中で重要だと感じたことを一人ずつ話してもらってください。最後に、モンソン大管長のメッセージについて証を述べてください。

預言者を通して与えられたままに神の言葉を教えることは、学ぶ人の生活に大きな影響を及ぼします（『教師、その大いなる召し』50参照）。モンソン大管長は、自分が神の子供であると知ることにより強さと力を得ることができると述べています。この記事を読んだ後、自分が何者であるかを思い起こさせてくれる事柄を、家族一人一人に話してもらってください。

者の中に見いだされました。迫害者サウロが、伝道者パウロとなったのです。

贖い主は不完全な人々を選んで、完成への道を教えさせられました。それは当時も今日も同じです。主は翼に灰色の交じった黄色いカナリアをお選びになるのです。主は皆さんやわたしを、この地上で御自分に仕えるように召しておられます。わたしたちは全力を注がなければなりません。そして懸命に努力する中で、もしつまずくことがあったなら、こう嘆願しましょう。「導きたまえ、おお導きたまえ、大いなる創造主よ、暗闇を抜け出で、再び戦うために。」¹

わたしたちがあのがリラヤの御方の模範に倣い、貧しい人や抑圧された人、虐げられた人、苦しむ人とともにいることができますように。そのようにするときに、わたしたちの心から真実の歌が流れてきますように。■

注

1. "Fight Song," ヤンカーズ高等学校

真の美しさとは？

このメッセージの中でモンソン大管長は次のように述べています。「この世では、道徳心よりも外見の美しさや魅力が重要視されることがよくあります。」若い女性の皆さんは、自分が何者であって、どんな人になれるか悩んでいるかもしれません。真の美しさについて七十人のリン・G・ロビンズ長老が述べていることをよく考えてみましょう。

- 幸福と徳で顔が輝いている若い女性は、内なる美しさがにじみ出ています。
- まったく自然にこぼれる徳高い笑みは、ほんとうに美しいものです。この真の美しさは表面的なものではなく、御霊の賜物の一つです。
- 慎み深さとは、内なる美しさを外に表すしるしであり、内面的な美しさに欠かせません。
- 自分の外見にがっかりすることがあったら、愛してくれる人たちの視点から自分自身を見てみてください。愛する人たちの目に映るあなたの隠れた美しさは、あなたの進歩を助けてくれる鏡となるでしょう。
- 徳高い女性が結婚したいと望むような男性も、生まれながらの男性とは違う視点を持っています（サムエル上 16：7 参照）。そのような男性は、徳高い女性の清く明るい心から放たれる真の美しさに引かれるでしょう。徳高い若い男性を探している若い女性も同じ視点を持っています。
- 天の御父は御自分のすべての子供たちに正義を選ぶよう望んでおられます。そしてそれこそが、いつまでも続く幸福と内なる美しさを得る唯一の方法なのです。
- 主とともにいれば、人と競う必要はありません。神の面影を自分の顔に刻む特権は等しく与えられています（アルマ 5：19 参照）。真の美しさに優劣はありません。

リン・G・ロビンズ長老の記事の全文（英文）を読むには、*New Era*, 2008年11月号, 30ページ, “True Beauty” をご覧ください。若い男性の皆さんのためには、「リアホナ」2009年10月号, 36ページに掲載の、エロル・S・フィッペン長老の記事「醜いアヒルの子か、それとも高貴なハクチョウか——それは、あなた次第！」に同様のアドバイスが載っています。



さいこうの歌を 歌いましょう

モンソンだいかんちょうは、マッキーしまいの 3羽のカナリアのことを話しました。2羽は、ぜんしんが黄色で、とてもきれいでした。のこりの1羽は、つばさにはい色がまじっていて、あまりきれいではありませんでした。でも、マッキーしまいは、そのカナリアが大すきでした。鳴き声が とても すてきだったからです。自分はほかの人みたいにきれいでないとか、頭がよくないと かんじている人がいます。でも、しゅにとっては どの人も 大切です。わたしたちは ちゅうじつに、ゆうきをもって、さいのうをつかって、人につかえることができます。すると、はい色のまじったつばさをもつ、黄色いカナリアのようになるのです。わたしたちは かんぜんではありませんが、自分に歌える さいこうの歌を 歌っているのです。

マッキーしまいと しまいの大すきなカナリアの絵に色をぬりましょう。それから、あなたの さいこうの歌をしゅに 聞いていただくために、できることを 3つ書きましょう。



わたしの さいこうの歌を しゅに 聞いていただくために、わたしは つぎのことを します。

- 1.
- 2.
- 3.

せいさん 聖餐によって聖約を新たにする



以下の聖句や言葉、または必要に応じて、訪問先の姉妹たちに祝福をもたらす原則を教えてください。

その教義について証してください。また、訪問先の姉妹たちに、感じたことや学んだことを分かち合うように勧めてください。

イエス・キリストは聖餐を定められた

「イエスはパンを取り、祝福してこれを裂き、使徒たちに与えて言われました。『取って食べよ……。』(マタイ 26:26)『これは、あなたがたのために与えるわたしのからだである。わたしを記念するため、このように行いなさい。』(ルカ 22:19) 同様に、昔ながらの水で薄めたぶどう酒が入った杯を取り、感謝の祝福をすると、御自分の周りに集まった人々に渡して言われました。『[この杯]は、罪のゆ

るしを得させるようにと』『流すわたしの血で立てられる新しい契約である。』『わたしを記念するため、このように行いなさい』……

ゲツセマネとゴルゴタの直前に2階の広間であったその出来事以来、約束の子らはこのようにして、各自がより新しく、高尚かつ神聖な方法で、キリストの犠牲を思い起こすという聖約の下に置かれました。』¹

十二使徒定員会 ジェフリー・R・ホランド長老

聖餐によってわたしたちはバプテスマの聖約を新たにする

「バプテスマを受けるとき、わたしたちはイエス・キリストの聖なる御名を受けます。主の御名を受けますことは、人生における最も重要な経験の一つです。……

わたしたちは毎週聖餐会でバプテスマの聖約を新たにするとき、救い主の贖いの犠牲を覚えることを約束します。救い主の模範に従うこと、すなわち御父に従順になり、いつも神の戒めを守ることを約束します。それによって、いつも御子の御霊を受けるといふ祝福を得ることができます。』²

十二使徒定員会 ロバート・D・ヘイルズ長老

「わたしは、8歳の女の子と一緒に過ごしました。その子はちょうどその日バプテスマを受けたのです。一日が終わるころ、その子は自信たっぷりにこう言いました。『バプテスマを受けて1日が終わったけれど、

家庭訪問をする際の助け

姉 妹とその家族と知り合いになったら、姉妹が聖餐によって聖約を新たにすることを助けるために、あなたにできることを探してください。彼女が聖餐会に出席していない場合には、出席するように勧めたり、出席できるように助けを申し出たりしていただけますか(交通手段、子供の世話、親しい人が一緒に座れるようにするなど)。

個人的な備え

- ルカ 22:19-20
- 1コリント 11:23-28
- 3ニーファイ 18:1-12

わたし、一度も罪を犯さなかったわ!』でも、完全な日が永遠に続くわけではありません。今ごろはこの女の子も分かり始めていると思いますが、わたしたちすべてがよく知っているように、どんなに頑張っても、悪い状況や間違った選択を常に避けることはできません……。

……自分の力だけで自分を真に変えることは不可能です。意志の力と心からの正しい動機だけでは不十分なのです。過ちを犯したり望ましくない選択をしたりしてしまった場合、救い主の助けなしに正しい道に戻ることにはできません。わたしたちは毎週毎週聖餐を取ることで、救い主にはわたしたちを変えられることができるといふ信仰を示しているのです。わたしたちは罪を告白し、その罪を捨てることを約束します。』³ ■

中央扶助協会会長 ジュリー・B・ベック

注

1. ジェフリー・R・ホランド「わたしを記念するため、このように行いなさい」『聖徒の道』1996年1月号, 72 参照
2. ロバート・D・ヘイルズ「バプテスマの聖約——王国にあって王国のものとなる」『リアホナ』2001年1月号, 8
3. ジュリー・B・ベック「主を覚え、悔い改め、変わる」『リアホナ』2007年5月号, 110-111



小さな、簡単なこと

「小さな、簡単なことによって大いなることが成し遂げられるのである。」(アルマ 37:6)

世界各地の教会歴史

ナイジェリア

数人のナイジェリア人が雑誌の記事や教会出版物から教会について学び始めたのは1950年代のことでした。教会の教えをもっと知りたいと考えた彼らは教会本部に手紙を書きました。

この要請を受けた教会の指導者は、ナイジェリアで伝道を始めることを検討しました。けれども、内乱やビザを取ることの難しさ、教会を運営するために必要な地元の神権指導者が足りないことが妨げとなっており、教会の正式なユニットを設立するには至りませんでした。

教会がようやく宣教師を派遣してきたのは1978年のことでした。ナイジェリアに到着した最初の宣教師たちは福音に関心を持っている人が大勢いることを知りました。同年11月に最初のバプテスマが執行され、同じ日に最初の支部が設立されました。

1987年までに教会員は1万人近



くまで増え、1999年には合計4万2,746人に達して、ナイジェリアの教会員数はアフリカで最も多くなりました。現在ナイジェリアのアバには、2005年にゴードン・B・ヒンクレー大管長（1910 - 2008年）によって奉献された神殿があります。

上——
総大会を見るために集まったナイジェリアの会員たち。
右——
ナイジェリア・アバ神殿

ナイジェリアの教会	
会員数	83,919
伝道部数	4
ステーク/地方部数	32
ワード/支部数数	256
儀式が行われている神殿数	1

家族のコミュニケーションを改善する方法

- 食事や聖文の勉強、家庭の夕べなどで家族が集まるときは、始める前に電子機器の電源を切るか、片付けておきましょう。
- 毎日少なくとも1度はみんなで食卓を囲むように努めましょう。



- 家族恒例の活動を計画しましょう。手の込んだものでなくてもかまいません。一緒にピクニックや散歩に出かけたり、ゲームをしたりするだけでよいのです。
- 一人一人が考えていることや気になっていることを口に出せる場を持ちましょう。非難や説教をせずに熱心に耳を傾け、話の腰を折らないようにしましょう。

右 上から——曹景◎Gabe Masas、写真©Gabe Masasの厚意により撮影。写真/チャド・E・フアラシ
左 上から——写真/ジョン・オル・フアラシ、写真/マシュー・ライアール、絵/バス・M・ホイッタカー

じゅうぶん

什分の一

貧しくても従うべき戒め

七十人

リン・G・ロビンズ長老



あなたの時間の使い方は？

- 1日は24時間あります。あなたは睡眠や仕事（勉強）に多くの時間を使っていることでしょう。でも、ほかのことに使える時間も毎日数時間はあるはず。そのうちテレビやインターネットに費やしている時間はどれくらいですか。1日に1時間だけ、次のどれかに時間を使うとしたら、1週間で幾つの目標や計画、課題を達成できるでしょうか。1か月、また1年ではどうでしょうか。
- 聖文を読む。またはマスター聖句を暗記する。
- スポーツをするか体を動かす。
- 新しい趣味を持つか才能を磨く。例えば料理、歌、裁縫、園芸、楽器の演奏など。
- 家庭の夕べに参加する。または家族と一緒に時間を過ごす。
- 良書を読む。
- ワードまたは支部から出ている宣教師に励ましの手紙を書く。
- 外国語を学ぶ。
- 家族歴史活動を行う。
- ホームティーチングや家庭訪問を行う。
- 教会の召しを果たす。
- 日記をつける。

時間を賢く使うことについて、22ページに掲載されているデビッド・A・ベドナー長老の記事を注意して読みましょう。

1998年10月に、ハリケーン・ミッチによって、中央アメリカの多くの地域が甚大な被害を受けました。ゴードン・B・ヒンクレー大管長（1910 - 2008年）は、被災者を思い非常に心を痛めました。食物や衣服、家財道具など、あらゆるものを失った人が多くいました。

大管長は、ホンジュラス共和国のサンペドロスラヤテグシガルバ、ニカラグア共和国のマナグアなどの各都市に住む聖徒を訪ねました。各都市でこの現代の預言者が伝えたメッセージは、愛にあふれた預言者エリヤが飢えたやもめ女に告げたのと同様に、犠牲を払い、什分の一の律法に従うようにというものでした。

貧困にあえぐ人に犠牲をささげるようにと、どうしたら言えるでしょうか。食物や衣服の積み荷が、それを受け取る人たちにとって緊急事態を乗り越える助けになることを、ヒンクレー大管長はよく理解していました。しかし大管長がその人たちに抱いている関心や愛は、物質的支援をはるかに超えたものでした。人道支援の大切さはもちろんのこと、最



ゴードン・B・ヒンクレー大管長は1998年のハリケーンに襲われたホンジュラスの教会員を訪ねました。

も大切な助けは人ではなく神からもたらされるものであることを、大管長は知っていたのです。預言者が願っていたのは、助けを必要としている人々が、マラキ書で主によって約束されているように自ら天の窓を開くことができるよう、助けることだったのです（マラキ3:10；モーサヤ2:24参照）。

ヒンクレー大管長は、被災した人たちが什分の一を納めるなら、食卓には常に食物が並び、着る物に不自由せず、また常に住む場所に困らないと教えました。

2005年4月の総大会説教から

あかし 証を強める

イエス・キリストに対する証を深めようと努力して分かったのは、簡単なことを繰り返し行ううちに証が強められていくということです。祈る、教会へ行く、モルモン書を読む、キリストの証人になると



いったことに努力しているので、救い主に対するわたしの証は増し続けています。

避けようのない試練や問題に遭うこともあります。けれどもわたしは、選ぶべき道を教えてください、聖霊の促しに従うことによって、

害になるであろうことを避けてこられました。

教会の指導者から与えられた勧告に従うとき、自分の証が強まるのを感じ、天の御父に近づいていることが分かります。

イング・ソタビー（カンボジア）

永遠の進歩に欠かせない 選択の自由

1. この世の生涯はわたしたちが選択の自由をどのように使うかを確かめる試しの時期です(アブラハム 3:25 参照)。



天の御父はわたしたちに選択の自由を与えておられます。自分で選ぶこの能力は救いの計画の根幹を成すものです。

前世での天の会議において、天の御父は御自身の計画を提示されました。計画には選択の自由という原則が含まれていました。ルシフェルは背いて、「人の選択の自由を損なおうと」しました(モーセ 4:3)。その結果、ルシフェルと彼に従った者たちは追放されました。天の御父の計画を選んだわたしたちは、地上に来て肉体を得ることができるようになりました。この計画はまた、わたしたちの罪^{あがな}を贖う救い主イエス・キリストを与えてくれました。悔い改めることによって赦し^{ゆる}を得ることができるのです。わたしたちは喜んで叫び声を上げました(ヨブ 38:7 参照)。

選択の自由の賜物^{たまもの}を現世でどのように使うかによって、永遠に幸福になるか、惨めな状態に置かれるかが決

まります。聖文は「創世の前に天において定められた不変の律法があり、すべての祝福はこれに基づいて」おり(教義と聖約 130:20)、またこの律法には「罰が定められて」と教えています(アルマ 42:22)。したがって、わたしたちはどのような行動を取るかを決めるときに、その行動の結果をも選んでいるのです(ガラテヤ 6:7 参照)。結果はすぐに訪れないかもしれませんが、必ずついてきます。神の戒めに従うことを選ぶと、平安と永遠の命に導かれます。サタンの誘惑を受け入れることを選ぶと、罪と苦悩につながります。¹

旧約の預言者ヨシュアが語った次の言葉は、わたしたちに手本を示しています。「……あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい。ただし、わたしとわたしの家とは共に主に仕えます。」(ヨシュア 24:15)

注
1. 「真理を守る」134 - 135 参照

墮落の後でアダムとエバは「道徳的な選択の自由(善悪を選ぶ能力)を得ました。二人は学び、成長できるようになりました。しかし同時に、悪を選び、罪を犯すこともできるようになったのです。」(『わたしの福音を宣べ伝えなさい』49)



2. わたしたちが善と悪を見分けるために「すべての事物には反対のものが」なければなりません。これによってわたしたちは選ぶ機会を得ています(2ニーファイ2:11-16; 教義と聖約29:39参照)。



3. わたしたちが善悪を区別できるように、天の御父はキリストの光を与えてくださいました(モロナイ7:12-17参照)。



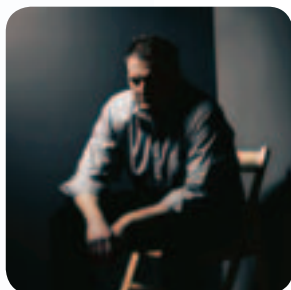
4. 善い行いであれ悪い行いであれ、何らかの行いを選ぶとき、わたしたちはその行いに結びついている結果も選んでいます(申命11:26-28; 30:15-20; ガラテヤ6:7; 黙示22:12参照)。



5. 「〔わたしたちは〕随意に行動することを許されている」ので、自分の行動に責任があります(ヒラマン14:30-31参照)。



6. 神の戒めに従うことを選ぶと、選択肢が広がり、さらに自由を得ます(2ニーファイ2:27; 教義と聖約58:26-28; 93:20参照)。



7. 神の戒めに従わないことを選ぶと、選択肢が狭まって、悪の束縛を受けるようになるでしょう(2ニーファイ2:29; ヨハネ8:34参照)。



8. 誘惑を退けることを選ばなら、天の御父は「〔わたしたち〕を耐えられないような試練に会わせることはないばかりか、……のがれる道も備えて」くださいます(1コリント10:13)。



9. 誘惑を退けることができるように、へりくだって「絶えず祈」らなければなりません(アルマ13:28参照)。

「そのため、人は……自由であり、
……すべての人の偉大な仲保者を通じて
自由と永遠の命を選ぶことも、あるいは
悪魔の束縛と力に応じて束縛と死を選ぶことも
自由である。」(2ニーファイ2:27)

フォトイラストレーション/マシュー・ライアー、その他の説明のあるものを除く。地球の写真/©Corbis。「エデンの園を追放されるアダムとエバ」/ゲーリー・カップ画。男と警察官のフォトイラストレーション/ロバート・ゲーシー

岩の上に建てる



オーソン・F・ホイットニーは、1855年7月1日にユタ州ソルトレーク・シティで生まれました。1906年4月9日にジョセフ・F・スミス大管長から使徒に聖任されています。この記事は、1916年10月7日の総大会で述べられた説教を基にしています。

十二使徒定員会

オーソン・F・ホイットニー長老（1855 - 1931年）

1847年、末日聖徒はブリガム・ヤング会長の指導の下、……ソルトレーク盆地へ向けた雄牛幌馬車隊による長くつらい旅の備えとして、自分たちを百人隊、五十人隊、十人隊に組織するよう〔命じられました〕。

さて、わたしは皆さんに幾つか質問をしてみようと思います。現在、この啓示の言葉をそのまま実践しようとするのは、賢明で良識あることでしょうか。鉄道や自動車、飛行機のある現代に、ここユタから雄牛に幌馬車を引かせてミズーリ川まで行こうとする人がいたら、皆さんはその人をどう思うでしょうか。……

わたしが今日お伝えしたい教えはこれです。すなわち、わたし

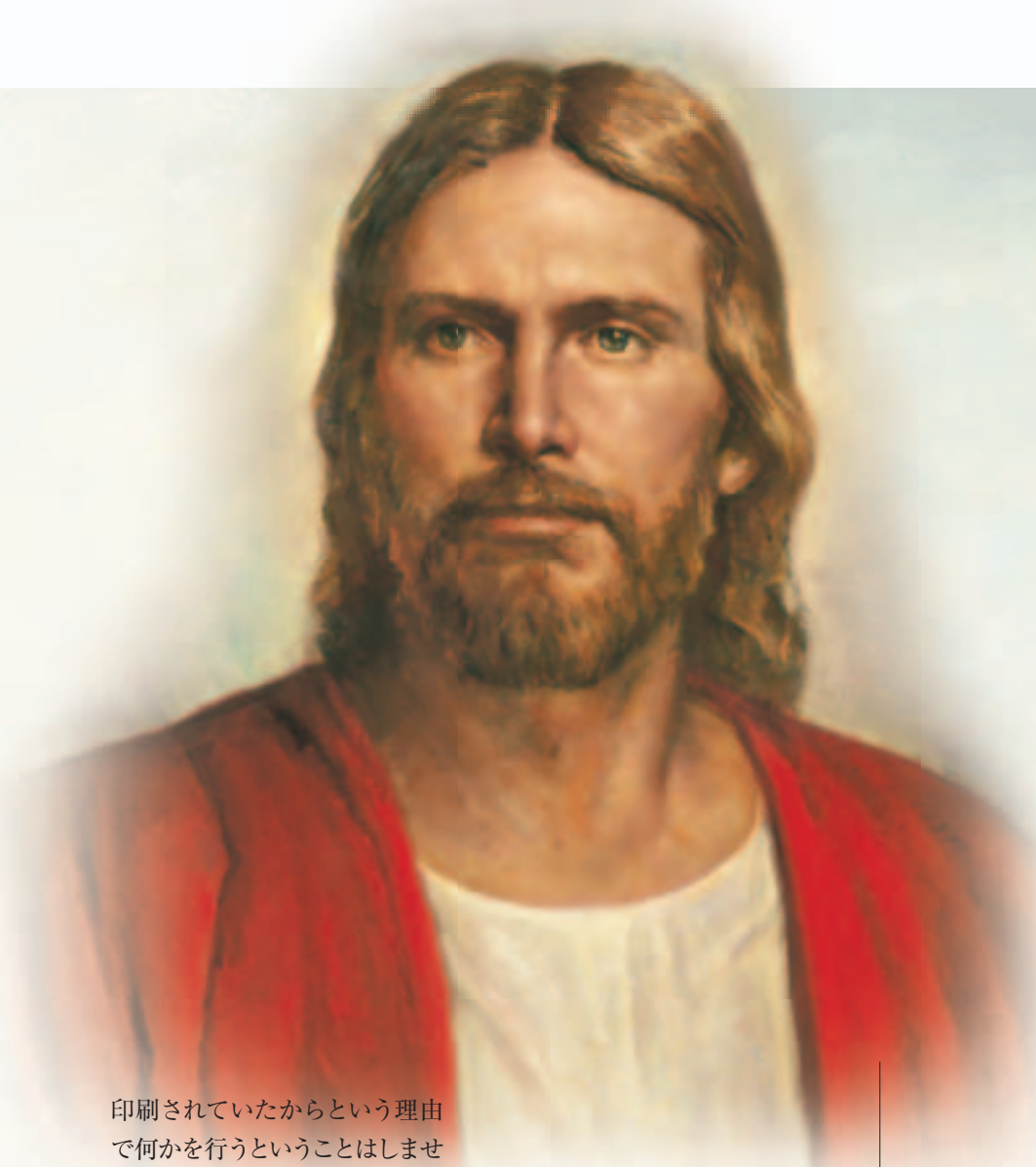
たちは進化する民であり、それはわたしたちが神の民だからです。それゆえ、わたしたちはそうした近代的な手段や改善された科学的な便宜を活用する権利を持っているのであって、そうしたものは、主の驚くべき業を推し進めるために主が備え、わたしたちの手に託されているのです。……

わたしたちを特徴づけるもの

何年も前のことですが、〔ほかの〕教会の学識ある聖職者がユタ州を訪問した際に、……その人と話す機会がありました。彼は以前「モルモン」の聖餐会せいさんに出席したことがあり、わたしたちの教会の主の晩餐の聖餐の執行方法について、批判的なことをかなり口にしていました。特に、聖餐

の場で、ぶどう酒ではなく水を使用することについては、否定的でした。彼は、人々が水を飲む光景を目にしたときなどは、身震いしたと言っています。そして、彼はある事実を指摘しました。つまり、聖書によれば、救い主がユダヤ人に聖餐の儀式を教えられたとき、ぶどう酒をお使いになり、それが主の血、つまり、主の血の象徴であることを宣言されたという事実を彼は指摘したのです。間違いなく、それは事実です。さらに付け加えれば、モルモン書の中にも、救い主がニーファイ人の中に聖餐を定められたとき、ぶどう酒をお使いになったという記載があります。

わたしのこの……友人は、知ってか知らずか、神の教会とこの地上に存在するほかのあらゆる教会とを区別する重大な相違点についての的確な指摘をしたのです。それは、ほかの教会が書物や慣習や人の教えを土台にしている一方で、この教会がキリストの岩の上に建てられ、また、直接的な絶えざる啓示という原則の上に建てられているということです。末日聖徒は、たまたまそれが書物に



印刷されていたからという理由で何かを行うということはしません。また、神がユダヤ人に命じられたからという理由で、何かを行うこともありません。さらに、キリストがニーファイの民にあることを指示したからという理由でそれをするということもありませんし、逆にしないで済ませておくということもありません。

この教会で行われていることはすべて、今この時代に天から語る神がこの教会に行うようにとお命じになったから行われているのです。……これがキリストの教会の制度です。わたしたちが主の晩餐の聖餐会でぶどう酒ではなく、水を使っているというのなら、それはキリストがそのように命じられたからなのです。

**神の教会とほかのあらゆる教会とを
区別する重大な相違点は、
この教会がキリストの岩の上に建てられ、
また、直接的な絶えざる啓示という原則の上に
建てられているということです。**

神の業は進み行く

神の啓示は人の環境や状況に適切に合わせて与えられます。その結果、神の業がその目的に向かって前進するのに応じて、次々に変更が加えられます。ですから、この教会を管理するのに十分に大きな、あるいは十分に詳しい書物などは存在しないのです。

そうは言っても、わたしは書き出された神の言葉、つまり書物として印刷された神の言葉に対しても十分な敬意を払っています。その中にはもう古くなり、その目的を達してしまっ、長い間棚の上に置かれているものもあるかもしれません。あるいは、今でも力があって生命力に満ち、わたしたちの現在の状態、つまりわたしたちの進歩の段階に当てはまるものもあります。しかし、そういうものであっても、正しく解釈する必要があります。神に代わって語り、神の言葉を解き明かす神の代弁者に反対して、書物に書かれていることを擁護してはならないのです。そうすることは、生ける預言者よりも古い死んだ文書を尊重するというものであり、どのようなときにも間違った考え方です。

2000年前にユダヤ人やニーファイの民に向かって主が言われたことでも、あるいは50年60年前に末日聖徒に言われたことでも、現代の啓示に合致していなければ、あるいは、主が選ばれ指名された僕たちや僕を通じて与えられたその民に対する最も新しい主の教えに一致していなければ、この時代にあってはその言葉にはいかなる力もありません。そして、この事実をないがしろにする人々は窮地に立たされることになるでしょう。耳を傾けるべきは神が語られた最も新しい言葉であって、過去の啓示ではありません。たとえそれがどんなに真実であったとしてもです。

神は、安定性や一貫性に欠けることもなく、今日は何かを命じ、明日はその戒めを撤回することがおできになります。2年に



1回招集される州議会でも、古い法律を改廃したり、以前に定めた条例が目的を達してしまえば、そうした条例を廃止したりすることもします。しかし、その立法府の議員に向かって、一貫性がないとか、自己矛盾だと言って責任を取らせようとする人は一人もいません。それでは、変化していく状況に合わせるために、神が今日おっしゃったことを、明日、あるいは来月、あるいは来年変更されたとしても、神を一貫性のない御方だと考えることができるでしょうか。

神がアブラハムにその息子を殺すように命じ、アブラハムがまさに殺そうとしたその瞬間、その同じ神がこう言われました。「わらべに手をかけてはならない。」(創世 22:12) アブラハムが従わなければならなかったのは、……最初の戒めではなく、2度目の命令でした。もし従わなければ、彼は命令に背くことになったのです。

歩みを合わせなければならない

わたしはこのテーマについて幾らでも話すことができますが、最後に次のように述べて終わりにしましょう。それは、神の業は進展しているということです。しかし、見た目は変わっても、原則に変化はありません。神の業の土台になっている真理は、永遠であり、

福音の真髄^{しんずい}は、成長し、進歩することにあります。

神の業は進んでいきます。しかし、皆さんやわたしはその業と一緒に進んでいるのでしょうか。……では、主の業と歩みを合わせるにはどうしたらいいのでしょうか。その方法は一つしかありません。それは、主が命じられたことを行い、主が禁じられたことを行わないようにすることなのです。……

キリストの教会のわたしの兄弟姉妹の皆さん。目を覚まして立ち上がり、行動しようではありませんか。……神のために行動し続けようではありませんか。そうすれば、神の業の精神が皆さんの内にとどまり、その道を歩む皆さんを導き、「その光はますます輝きを増してついには真昼となる」のです〔教義と聖約 50:24 参照〕。■

原文〔英語〕においては、句読点、段落、つづり、大文字が現代用法に改訂されています。小見出し付加。

**神がアブラハムにその息子を殺すように命じ、
アブラハムがまさに殺そうとしたその瞬間、
その同じ神がこう言われました。**

「わらべに手をかけてはならない。」

**アブラハムが従わなければならなかったのは、
……最初の戒めではなく、2度目の命令でした。**

不変です。しかし、数多くの規則は、神の業が進むに従い、変化を繰り返していきます。永遠の福音は、危機から逃れるための非常口以上のものです。それは人類の進歩のために神から与えられた計画であり、完成への道です。

変える力

匿名

わたしは教会員の家庭に生まれ、15歳までは活発でしたが、ヤングアダルトの年齢になると福音から離れてしまいました。そのころ、自分を幸福にしてくれるものを探しているうちに、麻薬に手を出したのです。

わたしは悪化の一途をたどる依存症にもがき苦しみました。わたしの生活はまるで俗悪な映画のようで、わたしにはそのスイッチを切ることができなかつたのです。やめようとしても、思いも行動もまったくコントロールできませんでした。自分が失ったものに気づいたのは、麻薬関連の罪で服役していたときでした。わたしはそのとき、モルモン書を持っていて、偶然アルマ書第5章7節を読んだのです。「見よ、神は彼らの心を改めさせ、彼らを深い眠りから覚まされたので、彼らは目覚めて神に従った。見よ、彼らはかつて暗闇のただ中にいたにもかかわらず、後に永遠の御言葉の光に照らされるようになった。」

わたしは、自分が暗闇の中にいることに気づき、心を変えたいと思いました。

それ以前には、自分を変えようとしたことはまったくありませんでした。様々な立ち直りプログラムに参加し、自分のためにも家族のためにも麻薬をやめようとして努力しました。どの訓練もしばらくの間は効果がありましたが、いつも途中で挫折しました。しかし、アルマ書のこの聖句はわたしにイエス・キリストに対する望みを与えてくれました。自分で自分を変えることはできなくても(事実そうでした)、イエス・キリストにならわたしを変えることがおできになるという望みです。



わたしは
自分の依存症という重荷を
救い主にゆだねたことを、
よく覚えています。
わたしは祈りをささげ、
天の御父に
「自分の力ではできません」
と打ち明けました。

わたしは自分の依存症という重荷を救い主にゆだねたことを、よく覚えています。わたしは祈りをささげ、天の御父に「自分の力ではできません」と打ち明けました。

わたしは末日聖徒依存症立ち直りプログラムに参加し、12のステップから成るクラスを1組の夫婦宣教師から教わりました。わたしはそのクラスで教えられたことで救われました。その夫婦宣教師は、遠い昔、幼いわたしが母と一緒に教会に集っていたときに

植えられた信仰の種を養ってくれたのです。夫婦宣教師はわたしに悔い改めと救しについて教え、さらに大切なことに、わたしに愛を示してくれました。そして天の御父や救い主からもっと深い愛を感じられるはずだと教えてくれたのです。わたしは「心の中に大きな変化が生じた」のを感じ(アルマ5:12)、長い間求めていた幸福はこれまでずっと福音の中にあったことを知ったのです。

わたしが主に頼ろうと決心してから6年の歳月がたちました。つらい努力の日々でした。でも、主の力により、数多くの障害を乗り越えることができたのです。

わたしの生涯に、妻や子供を持つという幸福や喜びが訪れるなどということは想像もしてませんでした。わたしはメルキゼデク神権を頂き、神殿の儀式を受けました。自分の人生をこんなに前向きに変えることができたのはイエス・キリストのおかげです。主こそ「変える力」なのです。

わたしは、かつての自分のように依存症と闘っている人々に、そしてそのような人々を愛している人々に証します。変わることは可能であり、まさに現実の話です。望みを捨てる必要はありません。幸福に立ち返るための道は存在します。イエス・キリストを通じて立ち返るのです。■

依存症立ち直りプログラムに関する情報が必要な場合、地元の神権指導者に相談してください。あるいは www.ldsfs.jp/LDSFS/arp.htm を検索してください。このプログラムのための手引き『依存症立ち直りプログラム——依存症からの立ち直りと癒しのためのガイド』(アイテム番号 36764) は多くの言語で入手可能です。



七十人
ケネス・
ジョンソン長老

奉仕の 召しと任命

教会における正式な召しは、
適切な神権の権能による任命を経て初めて完了します。

18 32年2月16日、オハイオ州ハイラムで預言者ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンに与えられた示現に、次のような慰めと励ましの言葉があります。

「主はこのように言う。すなわち、主なるわたしは、わたしを畏れる^{おそ}者に憐れみ深くかつ恵み深く、また最後まで義をもって真理にかなってわたしに仕える者に誉れを与えるのを喜びとする。

彼らの受ける報いは大きく、彼らの栄光は永遠である。」(教義と聖約 76:5-6)

わたしは長年の教会員生活の中で、神によって召されることの意義と、主の招きに応じて仕えるときに約束される祝福について少しずつ理解を深めてきました。

指導者たちは奉仕の召しを会員に伝える前に主の御心^{みこころ}を知るために祈り、それが正しい決定であるという確認を感じます。わたしたちにとって、自分は神によって召されているという

個人的な証^{あかし}を、祈りを通して得ることは不可欠なことであり、喜ばしいことです。わたしたちがよりよく主を知り、愛することができるようになるために、主はその僕を通して、御自身の業に携わるようにわたしたちを招かれるのです(モーサヤ 5:13 参照)。

奉仕の召しを受けるとき、民を導き教える責任^{しよべ}を主から与えられたエノクのように、力不足を感じることもあるかもしれませんが(モーセ 6:31 参照)。「わたしの御霊^{みたま}があなたのうえにあるので、あなたのすべての言葉を、わたしは正しいとする」という御言葉^{みことば}により(モーセ 6:34)、エノクは神聖な任務を果たすために主が力を与えてくださることを知ってきつと安心したことでしょう。聖文にはエノクが「神とともに歩」み(モーセ 6:39)、偉大な指導者となったと記されています。エノクの経験には、主の教会で奉仕するわたしたちへ貴重な教訓が含まれています。

奉仕の業に召された人を任命すると

いう原則は、主がモーセにお与えになった次の指示の中に示されています。「あなたの手を〔ヨシュア〕の上におき、……彼にあなたの権威を分け与え……なさい。」(民数 27:18, 20)

神が定められたこの方法を通して、個人的な弱さや限界、さらには妨害さえも克服することができます。ヒラマンの二人の息子であるニーファイとリーハイの経験を思い出してください。「神の聖なる御霊が天から降^{くだ}って、彼らの心の中に入られたので、彼らはあたたかも火で満たされたかのようになり、驚くべき言葉を語ることができた。」(ヒラマン 5:45。17-19 節も参照)

御霊によって教える

ジョセフ・スミスへの啓示の中で、主は次のように問われました。「それゆえ、主なるわたしはあなたがたにこう尋ねる。すなわち、『何のためにあなたがたは聖任されたのか。』」²(教義と聖約 50:13) そして次のようにお答えになりました。「御霊、すなわち真理を教えるために遣わされた慰め主によって、わたしの福音を宣^のべ伝えるためである。」(教義と聖約 50:14)

明らかに、神聖な真理を教えるときに用いるべき方法には幾つかの制約があります。

「上から来るものは神聖であり、それについては注意して、御霊の促しによって語るようにしなければならないことを覚えておきなさい。」(教義と聖約 63:64)

「わたしから聖任され、慰め主すなわち真理の御霊によって真理の言葉

を宣べ伝えるために遣わされる者は、真理の御霊によってそれを宣べ伝えるか、それとも何かほかの方法によって宣べ伝えるか。

もしもそれが何かほかの方法によるとすれば、それは神から出てはいない。」(教義と聖約 50 : 17 - 18)

指導者や教師として教会の役職に召されるとき、わたしたちの責任は神の御霊によって神の言葉を教えることであり、「少々の聖句……を織り交ぜて形成した人間の哲学」³によって教えることではありません。エノク、ニーファイ、リーハイと同様、わたしたちも聖霊のささやきを通して高い所から助けを受けることができるのです。

教義や原則に関する情報を聞いたり読んだりするだけで十分だと断定してしまうかもしれません。しかし、そのように考えるのは、個人の啓示によって原則を深く理解できることを認識していない証拠です(ヨブ 32 : 8 参照)。預言者の兄ハイラム・スミスが靈感によって語った次の言葉をよく考えてみてください。「福音の第一の原則を宣べ伝えなさい。何度も繰り返し宣べ伝えなさい。そうすれば、日ごとに新たな考えやさらなる光が示されることに気づくはずです。原則について幅広く教えることができるようになり、理解も明確になります。」⁴

救い主の模範に従う

あらゆることについて最高の模範である主イエス・キリストについて、次のように記されています。

「イエスがこれら^{ことば}の言を語り終えられ^{おしえ}ると、群衆はその教にひどく驚いた。



それは律法学者たちのようにではなく、権威ある者のように、教えられたからである。」(マタイ 7 : 28 - 29。ジョセフ・スミス訳マタイ 7 : 36 - 37 も参照)

モルモン書の偉大な預言者アルマはこの方法を身をもって示しました。「ところで、御言葉を説き教えることは民に正しいことを行わせるのに大きな効果があり、まことにそれは、剣やそのほか、これまで民に起こったどのようなことよりも民の心に力強い影響を及ぼしたので、アルマはこの度も神の言葉の力を使うのが望ましいと思った。」(アルマ 31 : 5)

福音を教えるという神聖な責任を受けたときは救い主の模範に従い、主とともに「わたしの教はわたし自身の教ではなく、わたしをつかわされたかたの教である」と宣言しようではありませんか(ヨハネ 7 : 16)。■

注

1. 聖文中の神への「畏れ」は「敬虔」の概念に相通じるものです。デビッド・O・マッケイ大管長(1873 - 1970年)はこの神聖な特質に対する深い洞察をもって、次のように言いました。「敬虔さとは愛に基づいた深い尊敬の念である。」(Conference Report, 1967年4月, 86)
2. 聖文では「聖任」と「任命」が同じ意味で使われています(教義と聖約 20 : 67 : 25 : 7 参照。ジョセフ・フィールディング・スミス、「救いの教義」ブルース・R・マッコンキー編、全3巻、第3巻、96も参照)。
3. ジェフリー・R・ホランド「神からこられた教師」「聖徒の道」1998年7月号、30。モーサヤ 18 : 19 - 22も参照)
4. ハイラム・スミス、*History of the Church*、第6巻、323で引用



任命される

「任命は確立された教会の慣習であり、男性も女性も、宗務関係、定員会、補助組織の役職など、特別な責任に

『任命』されます。……

任命を形式的な行為と受け止めている人がいる一方で、大きな期待をもって臨み、一言も聞き逃さずに吸収し、それによって自分の生活を高めている人もいます。

任命は文字どおりの解釈が可能です(訳注——「任命」を意味する英語の set apart には「分離」の意味もある)。すなわち、罪からの分離、肉欲からの分離を意味し、何であれ粗雑で、下品で、悪意ある、安っぽい、低俗なものからの分離を意味し、この世から分離され、より気高い思いと行いへ向かうことを意味します。祝福は責任を忠実に行うことを条件に与えられます。」

スペンサー・W・キンボール大管長(1895 - 1985年)、*The Teachings of Spencer W. Kimball*、エドワード・L・キンボール編(1982年)、478



リニア・プラットフォーム



正しい インターネット活用法

インターネットは、わたしたちの生活を強め豊かにする多くの情報を瞬時に提供してくれます。霊を高めてくれるウェブサイトは導きや靈感を与えてくれます。以下は、インターネットが提供する利点を完全に絶つことなく現実とのつながりを保ち続けるための提案です。

時間を制限する

アメリカ合衆国のアイダホ州に住むレベッカ・レンフロー姉妹は以前、毎日のようにブログを書き、人のブログを読んでいました。彼女の頭は常時「作文」モードになっていて、子供たちと過ごす時間を楽しむより、そのことをどうブログに書こうかということばかり考えていました。彼女はバランスが必要なことに気づきました。

彼女は次のように言っています。「問題はブログを書くことではなく、それに時間とエネルギーをつぎ込みすぎることだと御霊が気づかせてくれました。それまでは、文字どおり自分の生活の一部を無駄にしていました。子供や夫と過ごす良質な時間や、聖文を真剣に深く研究することをおろそかにし、睡眠時間まで

犠牲にしていたために、奉仕の力、御霊への感受性、健康的な生活様式にも悪影響を及ぼしていたのです。」

レンフロー姉妹は良いもののために、より良いものを犠牲にしないことを学びました。十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老は次のように勧告しています。「『良いこと』だからというだけでは、行うのに十分な理由にはな〔りません。〕……もちろん、健全な娯楽を見たり、興味深い情報を得たりすることは良いことです。しかしそのようなことすべてが、そのために費やす時間に値するわけではありません。それより良いことがあり、最も良いこともあるのです。」¹

霊を高めてくれるメディアを選ぶ

アメリカ合衆国ワシントン州のエイミー・ポールセン姉妹は、ほかの母親たちが作った、子供に福音の原則を教えるレッスンのアイデアや活動を提供してくれるウェブサイトに感謝しています。視覚教材が必要なときはインターネットで絵を見つけて印刷します。アイデアが要るときは教会機関誌の記事や総大会の説教やオンライン手引きを検索します。



最も良い選択

「新しいメディアを使うときには、心を
新 広げ、機会を増やし、魂を豊かにす
るような選択をしてください。」

十二使徒定員会 M・ラッセル・バラード長老
「インターネットを使って福音を分かち合う」
『リアホナ』2008年6月号, ニュース2

「子供たちのために有意義な家庭のタベを準備するのに、わたしたち夫婦はインターネットの助けを借りてきました」とポールセン姉妹は言います。「それに、『子供たちに祈ること、主の前をまっすぐに歩むことも教え』る母親がたくさんいると知って、心強く思いました。」(教義と聖約 68:28)

インターネットを使って福音を分かち合う

アメリカ合衆国ユタ州の会員リン・フロイド兄弟は、先祖の写真や歴史を載せた家族歴史ウェブサイトを作りました。このウェブサイトやそのほか同様のウェブサイトは、教会とその教義についての情報を提供するうえで役立っています。バプテスマを希望する人や、再び教会に出席するようになる人も出ています。家族歴史を探求するため、教会の召しを果たすため、夫婦のきずなを強めるために、そのようなウェブサイトを役立てている人たちもいます。

インターネットの建設的な利用法は数多くあります。インターネットの利用について自分の指針を作るときには、自分の心を広げ、機会を増やし、霊を豊かにしてくれるサイトだけを訪問するという指針を必ず取り入れてください。そうすれば、インターネットは個人の生活を豊かにし、家族を強める、素晴らしい手段となり得ます。■

注

1. ダリン・H・オークス「良いこと、より良いこと、最も良いこと」『リアホナ』2007年11月号, 104, 105

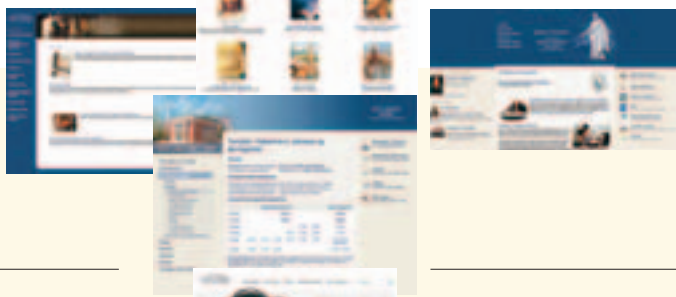
教会のウェブサイト

教 会のウェブサイトには、福音を学習し指導するうえで助けになる優れた資料が用意されています。総大会説教、教会歴史、召しを果たすためのヒントなど、教会のウェブサイトを使えば、会員は福音の資料を簡単に利用できます。以下に様々な言語で提供されている教会のウェブサイトを紹介し



教会ウェブサイトを使って、福音を分かち合い、レッスンの準備をし、家族歴史の業を行うことができます。





- **LDS.org** — 総大会説教を研究する。教会の最新ニュースを読む。教会の多くの資料に接続する。福音ライブラリにある教会の教材や機関誌などの資料は、中国語、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、韓国語、ポルトガル語、ロシア語、スペイン語でも提供されている。
- **Mormon.org** — 隣人、家族、友人に紹介する。教会についてもっと知りたい人のために作られており、神の特質、永遠の家族、救いの計画など、福音の基本的な教えが説明されている。多数の言語で提供されている。
- **JesusChrist.Ids.org** — 救い主イエス・キリストについて使徒や預言者の証^{あかし}を読む。英語とスペイン語で提供されている。
- **Liahona.Ids.org** — 『リアホナ』の気に入った記事や、ウェブだけのフォトギャラリー、子供のための活動を探す。
- **ProvidentLiving.org** — 食糧貯蔵、就職、教会の人道支援活動など、自立について学ぶ。英語、ドイツ語、ポルトガル語、スペイン語で提供されている。
- **LDSjobs.org** — 求人情報を探す、学校情報を探す、就職希望者を紹介する、ワードや支部の求職者を助ける方法を学ぶ。英語、ポルトガル語、スペイン語で提供されている。
- **YouTube.com/MormonMessages** — 福音の原則に関する短い動画を見る。英語とスペイン語で提供されている。
- **Temples.Ids.org** — 世界各地の神殿に関する情報と写真を見る。英語、ドイツ語、ポルトガル語、スペイン語で提供されている。
- **FamilySearch.org** — 自分の家系を探求する。先祖に関する情報を提出する。神殿の業のために名前を準備する。英語、フランス語、ドイツ語、ポルトガル語、スペイン語で提供されている。中国語と日本語と韓国語は今年の後半に利用可能になる。

- **FamilySearchIndexing.org** — 教会家族歴史資料のデジタル化、索引作りのボランティアをする。英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ポルトガル語、ロシア語、スペイン語で提供されている。
- **Countries.Ids.org** — 多くの国には国別の教会公式ウェブサイトがある。例えば、デンマークのサイトではデンマーク・コペンハーゲン神殿のビデオが見られる。アルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイの3国合同サイトでは、会員が登録すれば教会指導者による霊的な引用を電子メールで受け取れる。韓国のサイトでは教会の映画が見られる。ほかの国別サイトでも同じようなサービスが提供されている。
- **Languages.Ids.org** — LDS.org に収録されている資料の中から各言語に翻訳されているもののリストを掲載。ほとんどすべてのサイトで総大会説教や教材がネット上で提供されている。その他の資料を提供するサイトもある。
- **Images.Ids.org** — 福音関係の絵画、教会歴史関係の絵画、神殿の写真、その他をダウンロードする。
- **LDS.org/braille** — 英語とスペイン語で点字テキストを掲載。ダウンロード可、印刷可。
- **ByuTvInt.org** — ブリガム・ヤング大学のプログラムをネット上で視聴する。自分の地域で視聴する方法を検索する。英語、ポルトガル語、スペイン語で提供されている。
- **Music.Ids.org** — 賛美歌やその他の音楽を聴く。楽譜を印刷する。英語、フランス語、ポルトガル語、スペイン語で提供されている。(www.music.lds.org で **Music** を、次に **Hymns** をクリックし、言語を選択する。)



十二使徒定員会
デビッド・A・
ベドナー長老

わたしはコンピューターが作り出すある種の仮想空間での交流や体験に対して、使徒として警告の声を上げます。霊を鈍らせ、抑え、押し込め、抑圧することになりかねないからです。



現在のこ

皆

さんとともに学ぶこの機会を楽しみにして準備を進めてきました。準備していくうちに、ニーフアの弟ヤコブが抱いていた深い憂いがよく分かるようになってきました。ヤコブはこう言っています。「今日のわたしは、あなたがたの幸いを願う気持ちと心配がこれまでよりも大きいので、心が沈んでいる。」(モルモン書ヤコブ2:3) 今日皆さんに伝えたいメッセージは、「天からの露のよう

に」長い時間をかけてわたしの心に滴り落ちてきたものです(教義と聖約121:45)。現在の生活にも永遠の行く末にもかかわる大切な事柄ですので、よく注意して聞いてください。この集会の間、聖霊がともにいて皆さん一人一人に教えを授けてくださるよう祈っています。

わたしはモルモン書に書かれている真理の簡潔明瞭な定義に以前から感銘を受けていました。「御霊は真実を語り、偽りを言われることがない。したがって、御霊は現在のことをありのままに示し、未来のこともまた、ありのままに述べられる。それゆえ、これら

のことはわたしたちの救いのために、わたしたちに分かりやすく示されているのである。」(モルモン書ヤコブ4:13。教義と聖約93:24も参照)

この節で定義されている真理の最初の重要な

とをありのままに

要素, すなわち「現在のことをありのままに」という言葉に焦点を当てることにしましょう。まずは、物事をありのままに知り、理解するための教義的な土台として、天の御父の幸福の計画を構成する主要な要素を確認します。次に、敵対者がわたしたちの注意を引き、現実をありのままに見る力を弱めるために使う攻撃方法について考えます。そして最後に、若い皆さんにかかっている責任について話します。ますます混乱し邪悪になっていく現代の世の中であって、皆さんは従順になり聖なる聖約を尊び、常に現実をありのままに理解する必要があります。

人の神聖な行く末

「家族——世界への宣言」で、大管長会と十二使徒評議会は次のように宣言しています。神の霊の息子、娘としてわたしたちは「神の計画を受け入れました。その計画によって、神の子供たちは肉体を得ることができ、また、完成に向かって進歩して、最終的に永遠の命を受け継ぐ者としての神聖な行く末を実現するために、地上での経験を得られるようになったのです。」¹ 肉体を得ることが、進歩して神聖な行く末を実現する過程に不可欠であったことに注意してください。

預言者ジョセフ・スミスは肉体を持つことの大切さをはっきりと教えています。

「わたしたちがこの地上に来たのは、肉体を得て、日の栄えの王国において神の前にその肉体を清い状態で差し出すためです。偉大な幸福の原則は、肉体を得ることの中にあります。悪魔は肉

体を持っておらず、これが悪魔にとっての罰となっています。悪魔は人の幕屋を得ることができれば喜びます。救い主によって追い出されたときには、豚の群れの中に行くことを願い求めました。これは、悪魔は何も持たないよりはむしろ豚の体でも持つことを願うことを示しています。肉体を持つすべての者は、肉体を持たない者を支配する力を持つのです。

わたしたちが許さないかぎり、悪魔はわたしたちを支配する力を持ちません。わたしたちが神から来るものに背いた瞬間に、悪魔は力を得るのです。」²

肉体を得ると、前世では得ることができなかった広く、深く、強い経験ができるようになります。十二使徒定員会のボイド・K・バッカー会長は次のように教えています。「わたしたちの霊と肉体は結合して、肉体は精神の道具となり、人格の基となるのです。」³ このように肉体を得ることによって、わたしたちはより豊かな人間関係を持つようになり、真理を理解し真理に従って行動する力、そして、イエス・キリストの福音の原則と儀式に従う能力が増します。わたしたちはこの世という学校の中で、優しさや愛、親切、幸福、悲しみ、失望、苦しみを経験します。また、永遠に対する備えをするために、肉体的・物理的な制約という試練すら経験するのです。端的に言えば、聖文にあるように、人生には「肉において」学ぶべき教訓と経験すべき事柄とがあるのです(1ニーファイ19:6;アルマ7:12-13)。

使徒や預言者は、わたしたちの体はこの世でも永遠の世でも大切なものであると常に教えてきました。パウロは次のように言っています。

「あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。

もし人が、神の宮を破壊するなら、神はその人を滅ぼすであろう。なぜなら、神の宮は聖なるものであり、そして、あなたがたは、その宮なのだからである。」(1コリント3:16-17)

そしてこの神権時代に主は啓示の中で「霊と体が人を成す」と言っておられます(教義と聖約88:15)。現在も将来も変わらぬ真理は、肉体と霊がわたしたちの真の姿と個性を構成するという事です。肉体と霊が分離しないように結合するとき、わたしたちは満ち満ちる喜びを味わいますが、この二つが分離すると、そのような喜びを味わうことはできません(教義と聖約93:33-34参照)。

御父の計画に従えば、御父の子供たちは幸福になり、復活し、栄光に満ちた体で御父のもとに無事帰ることができます。ルシフェルは神の息子、娘たちを混乱させ、不幸にし、その永遠の進歩を阻もうとします。偽りの父がもくろんでいるのは結局のところ、すべての人が「自分のように惨めになる」ことなので(2ニーファイ2:27)、彼は自分が最も忌み嫌う御父の計画の重要な部分をゆがめようとするのです。

サタンすなわちルシフェルには肉体がないので、彼の永遠の成長は止まっています。ダムでせき止められた川の水と同様、ルシフェルは肉体がないので永遠の進歩を阻まれているのです。ルシフェルは御父に背いたので、骨肉の幕屋を通して得られるこの世の祝福と経験をすべて受けられなくなりました。肉体を得て初めて理解できる事柄を学ぶことができません。結婚もできなければ、子供をもうけ家族で暮らす祝福を享受することもできません。全人類が文字どおり復活するという現実にもルシフェルは我慢ができません。「罰の定め」という強い意味を持つ言葉が聖文に出てきますが、これは、成長を続けて天の御父のようになることができないルシフェルの状態を表しています。

肉体は御父の幸福の計画とわたしたちの霊的成長の中核を成すものですから、ルシフェルが人を

誘惑して肉体を誤用させ、永遠の進歩を阻もうとすることは驚くには当たりません。永遠において最も皮肉な話は、まさに肉体がないために惨めな敵対者が、肉体を誤用するよう人をそそのかして、自分のように惨めにしようとたくらんでいることです。こうしてルシフェルは、自分は所有せず使うこともできない道具を最大の攻撃目標として、わたしたちの肉体と霊を破滅に陥れようとしているのです。

敵対者の攻撃

敵対者はわたしたちを誘惑して、わたしたちが肉体を誤用するように、また、肉体の価値を過小評価するように仕向けます。この二つの形の攻撃



「わたしたちの霊と肉体は結合して、
肉体は精神の道具となり、
人格の基となるのです。」

十二使徒定員会 ボイド・K・バックナー会長

を認識して跳ね返すのは大切なことです。

天の御父の子供の中に肉の幕屋を誤用する人がいると、サタンは喜びます。誤用するとは、純潔の律法を破ったり麻薬その他の習慣性のある物質を摂取したり、肉体に手を加えてその外観を損なったり、自分や他人の身体の像を偶像礼拝の対象としたりすることです。救いの計画を知り、理解しているわたしたちにとって、どんな形であれ肉体を汚すことは神に対する背きであり、神の息子、娘というわたしたちの真の姿を否定することなのです(モーサヤ2:36-37; 教義と聖約64:34-35参照)。

さて、兄弟姉妹の皆さん、肉体を誤用する方法をすべて告げることはわたしにはできません。「その方法や手段はいろいろあって、数え上げられないほど多いから」です(モーサヤ4:29)。皆さんには正しいことと間違っていることの区別が分

かっています。そして、なすべきこととそうでないことを「研究によって、また信仰によって」自分で識別し(教義と聖約 88:118)、なすべきこととそうでないことの教義的理由を自分で理解することは、一人一人の責任です。わたしは証^{あかし}します。皆さんがそのように努力しようと望み、「自分自身や自分の思い、言葉、行いに注意を払^い、神の戒めを守^り、主の来臨について聞いた事柄を生涯の最後まで信じ続け^る」ならば(モーサヤ4:30)、皆さんの霊は啓発され、守られるでしょう。そして、忠実さと熱心さに応じて偽りを見破る力が与えられ、肉体を誤用するよう敵が攻撃してきたとしても、跳ね返せるようになるのです。

サタンはまた、神の息子、娘をいざなって、肉体の価値を過小評価させようとしています。特にこのような攻撃は巧妙であり、非常に邪悪です。悪魔はわたしたちをなだめ、欺いて現世での安全を確信させ(2ニーファイ 28:21 参照)、わたしたちが前世で喜び呼ばわった「地上で学ぶ経験」(ヨブ 38:7 参照)を台なしにさせようとしています。悪魔はどのような手を使うのでしょうか。幾つか例を挙げて説明したいと思います。

例えば、だれもが楽しむことができ、健全で、楽しく、興味をひかれるような活動はいろいろあります。しかし極端に走り常軌を逸した危険なスリルを際限なく求めるとしたら、それは自分の肉体を過小評価し、健全な肉体を危険にさらすことになります。別に悪いことをしているわけではないし、どう見ても害のない遊びではないか、と主張する人もいるかもしれませんが、でも、単にスリルやおもしろさを追求するため、自尊心を満足させるため、人に認められるために、経験から学ぶ道具として神が下さった肉体を危険にさらすとしたら、結局のところ、肉体の価値を過小評価^{こんにか}していることになるのです。

残念なことに今日の若い教会員の男女の中には、「現在のことをありのままに」とらえようとせず、電子機器を使った娯楽や気分転換など、価値のない事柄のために、永遠に続く関係をないがしろにしている人がいます。

テレビゲームやインターネット上での友達つきあいに病みつきになったことが原因で、聖なる神権の権能によってこの世においても永遠にわたっても結び固められた若い夫婦の結婚生活にひびが入るのを見ると、胸が痛みます。若い男女の中には、精神と霊をまひさせるテレビゲームやオンラインゲームに時間を果てしなく浪費し、仕事や教育で成果を上げるチャンスを後回しにしたり失ったりする人、そして挙げ句の果てには大切な人との関係を犠牲にする人がいるようです。主が言われたように、「それゆえ、わたしは彼らに戒めを与える。……あなたは時間を無駄に過ごしてはならず、またタラントを隠して、それが知られないようにしてはならない」のです(教義と聖約 60:13)。

心の中でこう尋ねる人がいるかもしれません。「ベドナー兄弟、あなたは今日の話の冒頭で、人の永遠の進歩にとっての肉体の大切さについて話しました。テレビゲームやいろいろなタイプのコンピューター上でのやりとりは、肉体の価値を過小評価することにつながるとでも言うのですか。」そうです。それこそわたしが言わんとしていることです。説明しましょう。

わたしたちは科学技術を使って現実をそっくり写したり、拡大したり、仮想現実を作り出したりすることのできる時代に生きています。例えば、医者は生身の患者を練習台にするという危険を冒すことなく、シミュレーションソフトを使って込み入った外科手術の貴重な疑似体験をすることができます。パイロットはフライトシミュレーターで、多くの人命を救うための緊急着陸を繰り返し練習します。そして建築家や技術者は、革新的な科学技術を駆使して、地震などの自然災害から人命と建造物を守るために高度なデザインや工法に基づいて模型を作ります。

こうした例ではシミュレーションや模型の忠実度が高いため、有益な疑似体験ができます。「忠実度」とは、現実と疑似世界がどれほど似ているかという専門用語です。人命を救ったり生活の質を上げたりするための疑似体験のように、忠実度



このような画像は、新しい神殿を建設する際に、設計やデザインの過程で必ず使われます。建材や調度品、備品、照明、大きさ、バランスを確認でき、完成時に各部分がどのように見えるのか、どのような感じになるのかが分かります。重要な点は、神殿全体と建物を形作るあらゆる要素が、建設が始まる前にすでに隅々まで設計されているということです。



この画像はカリフォルニア州ニューポートビーチ神殿の結び固めの部屋をコンピューターが描いた完成予想図です。

が高く、目的が良いものであれば、このようなシミュレーションは建設的なものとなるでしょう。

コンピューターが描いた完成予想図（26ページ）と、次ページにある、実際に完成した部屋の写真を見比べて、忠実度を確認してみてください。

この例では、聖なる美しい神殿を設計し建設するという非常に大切な目的のために、忠実度の高い技術が用いられています。しかし、シミュレーションも模型も、忠実度が高いものが悪い目的で使われるなら、霊をむしろ危険にさらすことになります。例えば、神の戒めに背くような行為を試し

てみたり、「ただのゲームだから」と言っ、現実には行ったり考えたりしないことを、行ったり考えたりする誘惑を受けるのです。

わたしはコンピューターが作り出すある種の仮想空間での交流や体験に対して、使徒として警告の声を上げます。霊を鈍らせ、抑え、押し込め、抑圧することになりかねないからです。このような懸念は新たに浮上したわけではありません。テレビや映画、音楽など、ほかのタイプのメディアにも当てはまります。しかしコンピューターが作り出す仮想世界の中での危険は、より広範囲で、強烈です。科学技術を駆使して忠実度の高い仮想空間が作ら

れ、品位のない邪悪な目的を遂げるために悪用されています。皆さんにお願いします。このようなものにかかわることによって感受性を鈍らせ、霊を損なうことがないように用心してください。

敵対者は肉体を誤用させることができないと分かると、力強い策略を用います。肉体をまとった霊である皆さんやわたしをだまし、現実の物事から徐々に遠ざけようとするのです。つまり、肉体を持たない前世にいるような感覚で行動するよう誘うのです。わたしたちがこの誘いに乗ると、サタンは

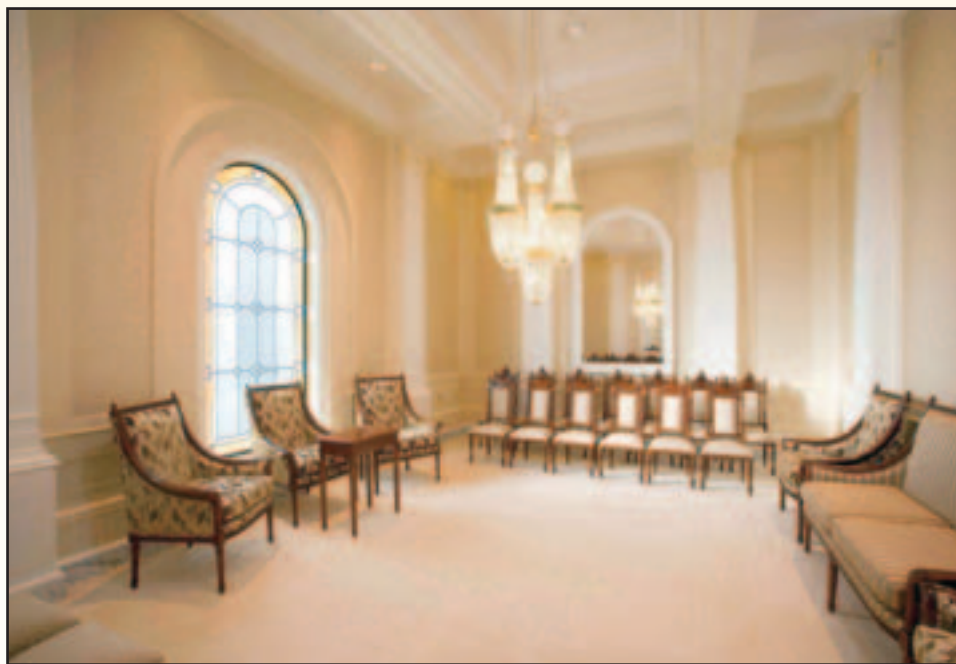
現代の科学技術を巧妙に使って目的を遂げようとしてします。どうか気をつけてください。コンピューター上の画像やメール、イヤフォンで聴く音楽、ツイッター、ソーシャルネットワーキング。このようなものに夢中になり、病みつきになるほどメディアやインターネットに没頭すると、肉体を持っていることの大切さを忘れ、人と人との豊かな交流の機会を逃すことになるかもしれません。コンピューター上の交流の中には、画像やデータを見ているだけで経験したように錯覚してしまい、現実の世界で実際に体験する能力や機会を奪ってしまうものが数多くあります。用心してください。

次の引用は、ある女性が仮想空間で出会ったボーイフレンドに強烈な恋愛感情を抱くようになった話です。コミュニケーション媒体がいかに肉体の大切さを過小評価させるかに注意しながら、よく読んでください。「PF スライダー（相手の男性のインターネット上での名前）なしでは一日が始まらなくなりました。実際に触れられるものはどうでもよくなってしまいました。わたしには体がありません。皮膚も髪の毛も骨もありません。すべての欲求は電気信号となり脳の前頭葉だけに届くのです。外に出ることもなければ人づきあいもなく、天気も関係ありません。ただコンピューターの画面と電話、自分が座るイス、それに水の1杯でもあれば、それでよかったです。」⁴

対照的にわたしたちはパウロの勧告に耳を傾ける必要があります。「各自、気をつけて自分のからだを清くたつと尊く保ち〔なさい〕。」(1テサロニケ4:4)

先に挙げた、主の宮で結婚したばかりの若い夫婦の例をもう一度考えてみましょう。未熟で良識ほんりよに欠けている伴侶は莫大な時間をテレビゲームや

インターネット上のチャットなどに費やし、やがて現実の世界よりもコンピューターの世界が優先し始めるかもしれません。最初のうちはこのようなことに時間を費やしてもさして弊害がないように見えるかもしれません。忙しいスケジュールに追まわられる毎日の中で、少しの息抜きは必要だと言って正当化するのです。しかし、人づきあいの技術を磨く機会や、ともに泣いたり笑ったりする大切な機会、永続する心の深いきずなを築く機会が失われてしまいます。一見無害に見える娯楽も、度が過ぎると人はそのとりこになってしまうことがあるのです。



カリフォルニア州ニューポートビーチ神殿の結び固めの部屋の実際の写真。

永遠の伴侶が優しく抱き締めてくれたときに感じるぬくもりや、証をしている人の目に見てとれる誠実さといったもの（それらはすべて肉体という媒介を通して経験できるありのままの現実です）が、永遠の価値を持たない本物そっくりの幻影の犠牲になる可能性があります。皆さんもわたしも、

気をつけていないと昔のレーマンとレムエルのように「心が鈍って」しまうことになりかねないのです(1ニーファイ 17:45)。

ありのままの現実から徐々に人を遠ざける例をもう一つ挙げましょう。今日人は、「セカンドライフ」のような仮想世界に入って別の自分になることができます。人は仮想世界の人物を作成して、自分と同じような容貌や行動パターンをそれに与えることができます。またはありのままの現実とは何の関係もない人物を作り上げることもできます。しかし新しい自分が本来の自分とどれほど似ていようと、そのような行動は現在のことをありのままにはしていません。先ほどシミュレーションや模型の忠実度の意味を説明しましたが、ここでわたしは、人の忠実度の大切さを強調します。つまり、現実の自分と仮想世界にいる自分を一致させるということです。経済紙『ウォール・ストリート・ジャーナル』(Wall Street Journal)に載った話をします。人の忠実度がいかに失われているかに注意して聞いてください。

リック・フーゲストラートは「〔53歳の〕たくましい男性で、長い白髪を後ろで一つに束ね、濃いもみ上げとごま塩の濃い口ひげを蓄えている。……〔リックは〕夜6時間、時には週末に14時間続けてダッチ・ホーレンベークになる。身長198センチで筋肉質の……仮想空間に存在する自分だ。この想像上の人物は、若くて美しい肉体を持つ〔リック自身〕である。……

……〔リックは〕、窓のブラインドを下ろしてコンピューターの前に座る。……一方、妻のスーは居間でテレビを見ている。フーゲストラート氏は画面に映る長身やせ型、赤毛の女性とオンラインで会話する。

この女性とは、新聞等で有名なコンピューター上の仮想世界『セカンドライフ』以外では会ったことがない。……電話で話したことすらないのだ。しかし、二人の関係は奇妙な現実味を帯びている。〔この仮想世界で〕二人は犬を2匹飼い、一緒にローンを払い、ショッピングモールで買い物をし、

バイクに乗って遠くまで出かける。……二人のきずなは非常に強く、3か月前には、赤毛の女性を操る38歳のカナダ人の女性ジャネット・スピールマンに『セカンドライフ』上で仮想の妻になってくれないかとフーゲストラート氏が申し込んだほどだ。

正式な妻は憤慨している。フーゲストラート氏と7か月前に結婚したばかりのスー・フーゲストラートさんは『まったくやりきれません』とこぼす。』⁵

兄弟姉妹、わたしは、科学技術がすべて本質的に悪いと言っているわけではありません。科学技術は良いものです。様々な機能を利用しないように言っているわけでもありません。適切な使い方

をして学び、意思を伝え、生活の質を高め、人生を明るくし、教会を確立し強めるために利用できる機能はたくさんあります。しかし、わたしは警告の声を上げます。見せかけの人間関係にのめり込んで、真の人間関係を損なうことがないようにしてください。「スタンフォード大学博士課程の最近の卒業生が行った、テレビゲームをする人3万人を対象にした調査によると、オンライン

敵 対者は 肉体を誤用させることが

できないと分かると、

力強い策略を用います。

肉体をまとった霊である

皆さんやわたしをだまし、

現実の物事から

徐々に遠ざけようとするのです。

ゲームをする人のほぼ40パーセントの男性と53パーセントの女性が、仮想世界の友達は現実世界の友達と同等かそれ以上に大切だと答えています。〔回答した〕人の4分の1以上は、過去1週間がいちばんうれしかったこととして、コンピューター上の世界であった出来事を挙げていました。』⁶

「現在のことをありのままに」という主による真理の定義は、何と重要かつ普遍的で、時宜を得たものでしょうか。「おお、それならば、このことはほんとうではないだろうか」と預言者アルマは問いかけました(アルマ32:35)。光と善は見分けがつき、経験することができるとアルマは言っています。

まさに、「〔御父〕の前に住む者は……神の完全と神の恵みを受けたので、彼らが見られているように見、彼らが知られているように知る」のです（教義と聖約 76：94）。

愛する兄弟姉妹の皆さん、用心してください。コンピューター上の交流で、人の忠実度が低く、交流の目的がゆがんで倒錯した邪悪なものである場合には、霊が損なわれる危険性が非常に高いと言えます。どうか直ちに交流をやめ、そのような場にも活動にも永遠に近づかないでください（2 テモテ 3：5 参照）。

さて、敵対者の攻撃のもう一つの特徴に目を向けてみましょう。サタンはしばしば、匿名性という幻想で人を誘います。ルシフェルは常に物事をひそかに行おうとします（モーセ 5：30 参照）。でも、忘れないでください。ブログ上の出来事だからとか、チャットルームや仮想世界で作ったもう一人の自分だからなどといっても、背教は匿名で行われるものではありません。不道徳な思いや言葉、行いはいつでも不道徳です。仮想世界においても例外ではありません。不正直な行為は陰に隠れてだれにも分からないと思われがちですが、不正直であることに変わりはありません。インターネットから音楽を不正にダウンロードしたり、CD や DVD を友人や家族に配るためにコピーしたりすることは不正直な行いです。わたしたちは皆、神に申し開きをしなければなりません。最終的には行いと心の望みに従って神に裁かれるのです（アルマ 41：3 参照）。人となりはその心に思うままなのです（箴言 23：7 参照）。

主は人の真の姿も心の内も、行いも、将来どのような人物になるかも御存じで、次のように警告しておられます。「背く者は深い悲しみに刺し貫かれる。彼らの罪悪が屋根の上で語られ、彼らの隠れた行いが暴かれるからである。」（教義と聖約 1：3）

現代は科学技術の発展とともに目まぐるしく変わっています。そこに潜む霊的な危険のほんの一部を紹介して警告の声を上げてきました。もう一度言いますが、科学技術や世の中

の激しい変化そのものには善も悪もありません。問題の本質は、科学技術も世の中の変化も、ともに永遠の幸福の計画の中でとらえなければならないということです。ルシフェルは肉体を誤用させ、肉体の価値を過小評価させようとするでしょう。神の創造物として与えられている無限の多様性をわたしたちから奪い、仮想世界で単調な作業の繰り返しに甘んじさせようとしています。そして、人間など作用される立場の死すべき存在にすぎないと思込ませます。人間が道徳上の選択の自由を持ち、自分の意思で行動する永遠の存在であることを忘れさせようとするのです。肉体をまとった霊をそそのかして、御父の幸福の計画とその独り子の贖罪^{しよぐざい}によって可能となった「肉において」の祝福と学ぶ体験を奪おうとするのです（1 ニーフアイ 19：6；アルマ 7：12 - 13）。

幸福になり、守られるために、救いの計画の教義をさらに熱心に学んでください。そして、今復習した真理について祈りの気持ちで思い巡らすことを勧めます。思い巡らし、祈りの気持ちで学ぶとき、次の二つの問いについて考えてください。

1. あなたは、様々な科学技術やメディアを活用することによって、生活で聖霊を常に伴侶としているでしょうか、それとも聖霊を遠ざけているでしょうか。

2. 様々な科学技術やメディアを活用することに費やした時間は、生きる力や愛する力、有意義な奉仕を行う力を高めているでしょうか、それとも制限しているでしょうか。

皆さんの状況と必要に応じて、聖霊がこれらの質問の答えと、靈感と、教えを与えてくださるでしょう。預言者ジョセフの言葉をもう一度読み、この言葉が真実であると断言します。「肉体を持つすべての者は、肉体を持たない者を支配する力を持つのです。わたしたちが許さないかぎり、悪魔はわたしたちを支配する力を持ちません。」

肉体に関するこれらの永遠の真理は皆さんを強め、皆さんは敵の欺きや攻撃を跳ね返せるようになるでしょう。わたしが心の底から願うのは、主の

復活に対する皆さんの証と感謝の気持ちが増えます強くなることです。その証と感謝とは、「あなたがたが〔主イエス・キリスト〕を信じることで、約束のとおり」(モロナイ7:41)皆さん自身が栄光に満ちた日の栄えの体をまとして復活することに対する証と感謝です。

次世代

ほんとうの皆さんに向けて明確に話したいと思います。皆さんはまさに、末日聖徒イエス・キリスト教会の若者です。1997年10月に十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老(1926-2004年)がブリガム・ヤング大学アイダホ校を訪れ、デイポーショナルで話しました。長老がキャンパスで過ごした日、わたしたちは福音全般について様々なことを語り合い、特に教会の若者について話し合いました。マックスウェル長老の言葉に深い感銘を受けたことを覚えています。長老は、「今の時代の若者には、かつての世代にはなかったほど従順に従う能力が備わっている」と言いました。

そしてその考えの根底にあるのは、大管長会第一顧問であったジョージ・Q・キャノン管長(1827-1901年)が説いた次の真理だと言いました。「神がこの神権時代のために取っておかれた霊は勇気と固い決意をもってこの世に立ち向かい、邪悪な者であるサタンが目に見えぬ所と見えない所で振るう力に対抗し、福音を宣べ伝え、真理を守り、いかなる結果が伴おうとも恐れずに神のシオンを確立し、築き上げます。神はこのような霊を今の若者の世代に送り込んでおられるのです。それはシオンの基をしっかりと据えて二度と覆されないようにするためであり、義のうちに生き、神を何よりも尊んで、いかなる状況に置かれても神に従う子孫を育てるためです。」⁷

両親と教会の指導者がよく言うのは、今の世代の若い男性や女性は、世界の歴史の中でも今の時期のために取っておかれた霊で、天の御父の最も雄々しい子供たちだということです。確かにそのとおりです。しかしそれが何度も言われているた

めに若い人たちはこの言葉に新鮮味を感じなくなっており、その大切さと真の意味を見過しているのではないかと懸念しています。わたしたちは、「多く与えられる者からは多く求められ」ることを知っています(教義と聖約82:3)。そして、キャノン管長とマックスウェル長老との教えから、今日わたしたちには何が求められているかを理解することができます。皆さんもわたしも雄々しくあって、「いかなる状況に置かれても神に従う」ようであればなりません。ですから、従順は、末日の善と悪との戦いにおいて若者が頼るべき第一の武器なのです。

主が権能を持つ主の僕を通して今日の若い男女

の「標準を引き上げ」られたことをわたしたちは喜んでいきます。わたしたちは自分が何者であり、なぜ地上にいるのかを知っているので、このような靈感に導かれた指示を歓迎し、感謝しています。同時に、ルシフェルが肉体を誤用させ、肉体の価値を過小評価するよう人を誘惑することによって、絶え間なく「標準を引き下げ」ようと奮闘していることを認識すべきです。

皆さんもわたしも
雄々しくあって、

「いかなる状況に置かれても
神に従う」ようであれば
なりません。

ですから、従順は、
末日の善と悪との戦いにおいて
若者が頼るべき
第一の武器なのです。

敵の欺きに気をつけるよう、救い主は繰り返しわたしたちに警告しておられます。

「そこで、イエスは答えて言われた。『人に惑わされないように気をつけなさい。……

それらの日には、偽キリストたちや偽預言者たちも起こって、大きなしるしと不思議を示し、できれば、聖約による選民である真の選民をも惑わそうとするであろう。……

だれでもわたしの言葉を大切に蓄える者は、惑わされることがない。」(ジョセフ・スミス訳マタイ1:5, 22, 37)

従順であれば聖霊が常にともにいてくださいます。

霊的な賜物^{たまもの}や能力が聖霊の力によって働くようになり、偽りを避けられるようになります。そして物事をありのままに見、感じ、認識し、理解し、記憶にとどめることができるようになるのです。だからこそ皆さんもわたしも、厳密に従順になる大きな力を賜っているのです。モロナイはこう言っています。

「主の言葉に聞き従いなさい。そして、あなたがたが必要としているものは何でも、イエスの名によって御父に求めなさい。疑ってはならない。信じなさい。昔のようになり、心を尽くして主のもと

撃を認識し、跳ね返すことができるでしょう。今日も将来も、予任されている責任を果たして、世界中で主の業に貢献できるでしょう。

神が生きていてわたしたちの天の御父であられることを証します。神は救いの計画を作られました。イエスはキリストであり、贖い主であられます。その体はわたしたちのために贖いの犠牲としてさざげられて傷つけられ、砕かれ、引き裂かれました。主はよみがえり生きておられます。そしてこの末日に主の教会の頭として立っておられます。「主の愛の御腕^{みうで}に永遠に抱かれる」(2 ニーフай 1:15)

というのは現実を経験することであって、仮想世界で疑似体験することではありません。

わたしたちは祝福されて、この世に立ち向かい、邪悪な者であるサタンが振るうあらゆる力に対抗する勇気と固い決意を今もこれからも持てるということを証します。義は勝ちます。いかなる汚れた者の手も、この業の発展を止めることはできません。これらのことを現在あるがまま、将来あるがままに証します。主イエス・キリストの聖なる御名^{みな}によって、アーメン。



に来て、主の前に恐れおののいて、自分の救いを達成しなさい。

試しの生涯にあって賢くありなさい。あらゆる汚れを取り除きなさい。求めるものを自分の欲望のために無益なものにせず、むしろどんな誘惑にも負けないで、まことの生ける神に仕えようという、確固とした決意をもって求めなさい。」(モルモン 9:27-28)

この靈感あふれる勧告に耳を傾けるならば、わたしたちは今日もまた将来も、祝福されて、敵の攻

注

1. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号, 49
2. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』211, 213
3. ボイド・K・バッカー “The Instrument of Your Mind and the Foundation of Your Character,” *Brigham Young University 2002-2003 Speeches* (2003年), 2
4. メーガン・ターム “Virtual Love,” *The New Yorker*, 1997年8月25日および9月1日付, 82; または メーガン・ターム, *My Misspent Youth* (2001年), 19
5. アレクサンドラ・オールター “Is This Man Cheating on His Wife?” *Wall Street Journal*, 2007年8月10日付, W8, W1
6. アレクサンドラ・オールター, *Wall Street Journal*, 2007年8月10日付, W8
7. ジョージ・Q・キャノン “Remarks,” *Deseret News*, 1866年5月31日付, 203; *Journal of Discourses*, 第11巻, 230も参照

カンボジアの末日聖徒たち—— 新たな流れに乗る

教会機関誌
チャド・E・ファレス

カンボジアのプノンペンでは春の終わりの雨季になると、それまで数か月間メコン川に流れ込んでいたトンレサップ川が自然の流れに逆らって逆流します。

この流れの転換により、川上に位置するトンレサップ湖の水かさが通常の5倍に膨れ上がり、湖に生息する魚や水鳥にとって非常に必要な栄養がもたらされているのです。

この流れを変える川のように、カンボジアの会員たちはイエス・キリストの福音が自分の人生の流れを大きく変えてくれたと感じています。今や会員たちの心は、福音がもたらす喜びと平安に満たされ、その膨れ上がった喜びが霊的な心の栄養となっています。

カンボジアはこれまで暗い時代をくぐり抜けて来ました。しかし、イエス・キリストの福音はカンボジアの多くの人々にとって、過去の暗闇くらやみから抜け出して新しい時代の輝かしい光を見る助けとなってきたのです。

流れを変える

カンボジアでは政治的に混乱していた1970年代に、多くの人々が家を追われ、家族を亡くしました。

カンボジア・プノンペン伝道部シェムリアップ支部のロイ・バンシーク支部会長は、1975年当時、9歳という幼さで、家族とともに家を捨てなけれ

これまで過酷な試練に直面してきたにもかかわらず、カンボジアの末日聖徒たちは、イエス・キリストの福音が将来への希望となる理由を見いだしています。

ばなりませんでした。一家は何百万人も難民とともに、カンボジアの広い畑で肉体労働に従事することを余儀なくされました。

この間に、ロイ会長は両親を、また8人のきょうだいのうち5人を亡くしました。



そうした苦難にもかかわらず、ロイ会長は常に、苦難を乗り越える助けとなるものを少なくとも一つ持っていました。

「わたしはいつも希望を持っていました」と会長は述べています。



ロイ会長が少年時代の苦難を乗り越える助けとなったのは確固とした希望でした。その希望が、後にイエス・キリストの福音の真理を見いださせてくれたのです。

カンボジアは国民の大半が仏教徒の国であるため、ロイ会長はイエス・キリストを知らずに育ちました。末日聖徒の宣教師が家を訪れ、家族に大切なメッセージを伝えたいと告げたと



反対側のページ——
 ツアーガイドを務める
 シェムリアップ支部の
 ロイ・バンシーク支部会長。
 訪問者に
 町の古い寺院を
 案内している。
 また、ツアー用
 ライトバンの中で
 香港神殿の写真を
 見せながら、
 末日聖徒の神殿について
 教える機会を
 見つけている。

左——
 センソック支部の
 カーン・サリン支部会長は
 若いころ、
 絶望的な気持ちに
 なることもあったが、
 妻のスオン・
 ソクモ姉妹から
 聖文と一緒に勉強しよう
 と誘われた後、
 教会に入った。
 上——
 プノンペン。

とロイ会長は述べています。
 「家族がモルモン書の教えに
 従って生活することで、以前よ
 りずっと幸福になっていくのが
 分かりました。」

ロイ会長の経験は珍しいもの
 ではありません。カンボジア・
 プノンペン北地方部センソック
 支部のカーン・サリン支部会長
 は、10代のときに家族から引き

離され、畑で強制的に働かされました。

「当時は絶望的な気持ちでした」とカー
 ン会長は述べています。「生き残れるか
 どうか分かりませんでした。」

「わたしは教会員になってから、
 ……それまでに感じたことのなかった
 新しい光を受けたのです。」

カーン・サリン



きに初めて、救い主について学ぶよう
 になりました。

「宣教師に会うまではイエス・キリ
 ストについて聞いたことは一度もあり
 ませんでした」と会長は述べます。
 「イエス・キリストについてもっと学び
 たいと思いました。」

熱心に勉強し、レッスンを受けた
 後、ロイ会長は2001年に、家族とと
 もにバプテスマを受けました。

「宣教師はわたしがモルモン書から
 学べるように助けてくれました。で
 も、わたしはモルモン書が真実である
 という証あかしを神様から受けたのです」

下——

最近完成した集会所には、
カンボジアの首都プノンペンで
増加を続ける会員たちが集う。

最下部——

ピフ・サレス兄弟と妻のセン・ター姉妹は
幼いころ、長い間家族から引き離された。
今は子供たちと一緒に過ごし、
教会の中で子供を育てる機会に
感謝している。

カーン会長は当時を回想し、生涯で
幾度も主が危害から守ってくださった
と感じています。若いころ軍隊に入り、
わずか6メートルの近距離から撃た
れましたが、無事でした。また、地雷
を踏んでも爆発しなかったことが何
度もありました。一度は踏んだ地雷
が爆発しましたが、大したけがをせ
ずに済みました。

兵士たちは危険な状況にいるため、
守りを得るために何でもしました。入
れ墨をすると守られると信じて、入れ
墨をする兵士も何人かいました。

「教会員になる前は、何も分かって
いませんでした」とカーン会長は述べて
います。「わたしを救ってくれたの
は入れ墨ではなく、イエス・キリストで
あったことが今ではよく分かります。」

カーン会長の妻であるスオン・ソク
モ姉妹は宣教師に会い、バプテスマ
を受けました。その後、会長は姉妹
の心の中に変化が起きているのが分
かり、胸を打たれました。そこで、聖
典と一緒に勉強しようという姉妹の
誘いを受け入れ、まもなくバプテスマ
を受ける決意をしたのです。

「わたしのこれまでの人生で得られ
た最も大切なものは、聖文の研究から



得た証です」と会長は述べています。

カンボジア・プノンペン北地方部プ
ンペン第12支部の会員ピフ・サレス
兄弟も、幼いときに試練を受けました。
まだ5歳のころ家族から引き離され、
畑で強制労働をさせられました。とき
には飢えをしのぐために、食べられる
カニやカエルを探すこともありました。

ピフ兄弟の妻であるセン・ター姉妹
とその家族も、強制的に家を追い出さ
れました。セン姉妹はまだ4歳で小さ
かったため、ほかの子供たちのように
強制労働はさせられませんでした。



「神殿の中で感じた喜びは、
何と言い表したらよいか
分かりません。……
家族が永遠に結ばれるために
神殿が必要なことが分かります。」
ロイ・バンシーク



しかし、一日の大半を家族から離れ、働くことができない高齢の女性たちに見守られて過ごしました。

ピフ兄弟とその妻は、1995年に宣教師に出会った後、天の御父が自分たちに注いでおられる愛について知りました。「問題があるとき、祈りが問題を解決する助けとなることが分かりました。天の御父が心にかけてくださっていると分かったのです」とピフ兄弟は述べています。

ピフ兄弟がバプテスマを受ける決意をした後、セン姉妹も福音について証を得てバプテスマを受けました。

膨れ上がる喜び

バプテスマを受けて以来、ピフ兄弟とその家族はイエス・キリストに対する証を得ることから膨れ上がる喜びを感じています。ピフ家族は毎日聖文を読む時間を取っています。その習慣を通して、福音の喜びが家族の心に満ちてきました。

「今わたしたちは正しい道を歩んでいると感じています。この狭い道からそれることなく、進歩を続けたいと思います。子供たちも一緒にこの道を歩んでいることにわたしは毎日感謝して

います」とセン姉妹は述べています。

ロイ支部会長が感じている喜びは、子孫だけでなく、先祖の方にも流れています。ロイ会長と家族は2004年に中国香港^{ホンコン}神殿を訪れました。ロイ会長は夫婦と子供たちとの結び固めをただけでなく、両親、および亡くなった兄弟と姉妹のために救いの儀式を完了しました。

「神殿の中で感じた喜びは、何と言い表したらよいか分かりません」とロ

イ会長は述べています。「家族が強められたことが分かりました。家族が永遠に結ばれるために神殿が必要なことが分かります。」

カーン支部会長と彼の家族も香港神殿で永遠の家族として結び固められる機会に恵まれました。「わたしは神殿で、それまでに感じたことのない気持ちを感じました。言葉では表せない気持ちです」とカーン会長は述べています。





奇跡は起こる

1994年、カンボジアで教会が正式に承認されました。今日、24の支部に約8,000人の会員が集っています。イエス・キリストの福音は、現在教会がほとんど影響を及ぼしていない世界の様々な地域に広がることができます。トーマス・S・モンソン大管長はそのような発展を求めて祈るようわたしたちに勧告しています。「教会に限られた範囲でしか影響力を及ぼすことのできない地域、現在のところ福音を自由に伝える許可が下りていない地域のために、これからも信仰をもって祈りをささげてください。そうするならば、奇跡が起こるに違いありません。」(『大会へようこそ』『リアホナ』2009年11月号, 5-6)

生き抜くための栄養

福音が広められているおかげで、カンボジアの会員は生き抜くために必要な霊の栄養を受けています。教会はカンボジアで発展していますが、会員たちはこの発展は福音がカンボジアで非常に大きく開花する前兆にすぎないと思っています。

トンレサップ湖の水があふれるときに魚や動物が必要な栄養を得るように、増加するカンボジアの会員たちは、福音を分かち合いたいという願いが心にあふれることにより、必要な霊の栄養を得ています。



「なべにふたをしておくとし、吹きこぼれてしまいます。わたしの心にあるのはそのような感覚です。わたしは心を開き、それがどのような感覚なのかをすべての人に伝えなくてはなりません」とカーン会長は述べています。

ロイ会長は、家庭で教えている福音の影響が長く続き、娘たちが福音を信じ続け、自分の子供たちに福音を教えるよう望んでいます。

「イエス・キリストについて学んだ

カンボジアには古代の建造物や寺院がたくさんありますが、福音はこの地の教会員の生活に新たな息吹をもたらしています。

後は、わたしの生活も家族との関係も、すべてが前より良くなりました。家庭の中に神権があることによって、家族が一致しています。問題が起ると、家族みんなで話し合います」と会長は述べています。

1994年、カンボジア政府は教会を正式に認可しました。以来、何千人ものカンボジア人が福音を受け入れています。ピフ家族は福音が国の隅々にまで広まる日を楽しみにしています。

人道支援サービス

末日聖徒慈善事業団は、健康維持に必要な生活必需品やサービスを得ることができないカンボジア人の必要を満たすために、大きな役割を果たしてきました。

家族の食料生産

末日聖徒慈善事業団は、有機肥料の使用法、また化学肥料や殺虫剤の使用を減らす方法を教えることにより、農家が米の収量を増やし、いっそう健康に

良い米を生産するための援助に力を注ぎました。また、販売用の米だけでなく、自分たちが食べる米を生産する重要性を農家に教えています。

車いす

2009年12月、末日聖徒慈善事業団はプノンペンの全国障がい者センターに1,000台余りの車いすを届けました。車いすは助けを必要としているカンボジアの教会員と教会員以外の人々に贈られました。



「問題があるとき、
祈りが問題を解決する
助けとなることが分かりました。」

ピフ・サレス



ピフ兄弟はこう述べています。「いつかカンボジアに神殿が建つ日が来ることを望んでいます。」

セン姉妹も同意します。「天の御父と御子イエス・キリストは生きておられます。将来に対するわたしの希望は、神殿が建つほどに教会が発展を続けることです。」

カーン支部会長は、救い主について学んでから、自分の生活がどのように

変わったかを自覚しています。そして、カンボジアの人々を過去の苦難から癒^{いや}せるのは、イエス・キリストの福音をおいてほかにはないと信じています。

「わたしは教会員になってから、過

去の出来事がもたらした多くの苦痛が消えました。それまでに感じたことのない新しい光を受けたのです。すべてが新しく感じられます」とカーン会長は述べています。■

飲料水

末日聖徒慈善事業団はカンボジアの村落に、石けん、浄水器、トイレ設備、雨水収集システム、水質分析に必要な機材を提供してきました。また、末日聖徒慈善事業団が工事を監督して掘った複数の井戸は、何千人もの人々に役立っています。



助けてください!

□ シアのサンクトペテルブルクに留学して2日目の夜、わたしは友達と一緒に街に出てアメリカンフットボールをしました。そして試合終了後、ためしにバスに乗って家に帰ってみることにしました。ロシアでバスに乗るのは初めてのことでしたが、ホストファミリーのお母さんからは、7番か1番のバスに乗れば家に帰れると聞いていました。ですから、7番のバスが来ると、それに乗り込みました。

走行中には、店を見たり、歩道を歩く人々を眺めたりしていました。辺りは次第に見慣れない景色に変わっていききました。腕時計を見ると、もう30分もバスに乗っていることが分かりました。

突然バスが止まり、ライトが消えると、乗客が全員降りてしまいました。わたしはうろたえないよう努めながら、だれか助けてくれる人はいないか辺りを見回しました。メトロ（地下鉄）

の場所が分かれば無事に家まで帰れることは分かっていました。若いカップルが通りを歩いているのが見えたので、そちらに向かって歩きました。

「道に迷っているのです。メトロはどこか分かりますか。」

「メトロはここからは遠いよ」と男性が言いました。「でも、あそこにバス停がある。5番のバスに乗ってごらん。メトロに行けるから。」

わたしはお礼を言うと、バス停に急ぎました。バスが近づいてきましたが、5番ではなく1番でした。ホストファミリーのお母さんの言葉を思い出しました。「7番か1番のバスに乗れば家に帰れるわよ。」

気が進まないまま乗ってみたのですが、またもや、行けども、行けども目的地に着きません。乗客は一人降り、二人降りして、最後にわたしだけになりました。

夜も更けていたので、メトロが閉まる前に駅を見つけることができなければ、サンクトペテルブルクの路上で夜を明かすことになってしまうのです。

そして、バスはついに道路わきに寄って止まってしまいました。

「降りてください。終点ですよ」と運転手が言います。

わたしは全身がぶるぶる震える中、なんとか息をして、涙をこらえました。夜も更けていたので、メトロが閉まる前に駅を見つけることができなければ、サンクトペテルブルクの路上で夜を明かすことになってしまうのです。

「天のお父様、助けてください」と静かに祈り、歩き始めました。そして、突然走り出すと、手を振ってタクシーを止めようと思いました。でも、1台も止まってくれません。

間もなく、別のバス停に来ましたが、そこにはたくさん人がいました。7番のバスが近づいて来て、そのライトがわたしたちを照らしました。わたしはためらいました。バスに乗っても知らない所に連れて行かれることばかりだったからです。でも、強い力に背中を押されてステップを上がり、バスに乗り込みました。座席に深く腰掛けると、腕時計を見ました。11時50分でした。あと10分でメトロは閉まります。

わたしは目を閉じ、もう一度小さな声で祈りました。「助けてください。」そして目を開けると、バスが停車した所に、メトロの駅のライトが明るく輝くのが見えました。わたしはバスを駆け降り、メトロに行って最終電車に乗りました。

座席に座ったとき、天のお父様が一羽のすずめにさえ心を寄せておられることを思って心の中で感謝しました（マタイ10:29-31参照）。あの大都市の暗い夜に、天のお父様がわたしを家まで導いてくださったのです。■

ティファニー・ルイス
（アメリカ合衆国テキサス州）





わたしは
危うく誘いに
応じるところでした。
しかしそのとき、
聖霊がお行きに
ならないような場所へは
行くなと
セミナーで
教わったことを
思い出しました。

惨事への誘い

ブラジル陸軍で徴兵に就いて間もなく、わたしは12人の分隊の伍長ごちやうに選ばれました。困ったことに、わたしの分隊の12人の若い兵士の持つ標準は、兵舎の中でも最低でした。違法薬物や窃盗、性的不道徳やその他の重大な罪を犯しているか、または犯したことがある人たちばかりだということが分かったのです。

わたしはこの兵士たちの低い標準に自分を合わせようとはせず、あらゆる機会をとらえて福音を伝えました。例えば、休憩時間や、一緒にライフルを磨いているときなどに、福音について話したのです。わたしの標準を物笑いの種にし、わたしのことをばかにするだろうと思っていたのですが、彼らはわたしの話に耳を傾けてくれましたし、敬意をもってわたしに接するようになりました。しかし、福音の教義を教えようと努めたところで、彼らの態度や行動は変わりませんでした。

そうこうしているうちに兵役も終わ

りました。彼らは除隊の日に、小さな牧場で一緒に祝杯を挙げないかと誘ってくれました。「伍長、来てくださいよ。伍長が来てくれないと、自分らの顔が立たないじゃないですか」と、兵士の一人が言います。

わたしは危うく誘いに応じるところでした。彼らの顔を立てるためです。しかしその瞬間、このような考えが頭をよぎりました。彼らのことだから、パーティーの標準は末日聖徒の標準とは正反対だろう。聖霊がお行きにならないような場所へは行くなとセミナーで教わったことを思い出しました。彼らが憤慨するのにかまわず、わたしは出席しないことを分隊に伝えました。そして、別れの言葉を言うと、帰郷したのです。

数か月たったころ、同じ分隊にいた兵士の一人と再会しました。彼の話聞いて、あのお別れパーティーに出席しなくてほんとうによかったと思いました。パーティーにはアルコールが

ふんだんに出たのです。兵士たちは酔っ払って酒のかけ合

いを始めました。そのうち、一人の兵士が冗談のつもりで仲間に向かって火のついたマッチを投げました。その仲間は大やけどを負い、数日後に死亡しました。その結果、仲間の死亡に関して、パーティーの参加者全員が刑事責任を問われることになったのです。

もしもあのパーティーに参加していたら、たとえアルコールを飲んでいなかったとしても、わたしは同じ災難に遭っていたことでしょう。事件に巻き込まれ、将来を失っていたかもしれません。亡くなった若者のことを悼みましたが、御霊みたまのささやきに従ったこと、教会の指導者の勧めがあったことに感謝しました。■

セザール・A・ミヌッティ(ブラジル)



神の戒めは
わたしたちへの
賜物であり、
それを守れば
神のみもとに
戻れるのです。

わたしは飲まないことにしました

ドイツ、シュトゥットガルトのユースカンファレンスまで行く途中、年配の女性と話す機会がありました。神殿や、回復された福音に対する証^{あかし}についてわたしは話しました。この女性は教会のことを知っており、福音の教義についてかなりの知識がありました。

でも、会話の中で女性が言った一言をわたしは残念に思いました。40年ほど前に末日聖徒の友人から教会を紹介されたときにその友人が言っていたことを、今でもはっきりと覚えているというのです。友人は「わたしはお酒を飲むことは許されていない」と言ったそうです。けれども、

末日聖徒の中にもお酒を「時々」飲んでいる人が何人かいることを知っているとその女性は言います。

福音はこの女性の考えとは異なり、人に強制しません。わたしたちは皆、自分のことは自分で決める権利を持っています。天のお父様が知恵の言葉を与えてくださったのはわたしたちの体を聖く保つためですが、この健康の律法に従って生活するかどうかは各人が決めることです。御父はわたしたちに選択の自由も与えておられるのですから。

わたしは数年前にバプテスマを受けたとき、イエス・キリストに従うと決めました。この理由でアルコール飲料は

飲みません。神の戒めはわたしたちへの賜物であり、それを守れば神のもとに戻れるのです。

この小さな出会いから、わたしは自分が主の教会の会員であって、わたしたちはいつでも人々の模範であることを再認識しました。ただし、どのような模範になるのかは、わたしたちの選^{えら}びにかかっています。■

トルステン・ケーニヒ(ドイツ)

テレビを消しなさい!

感謝祭の休みの次の土曜日の夜のことで。わたしは大学のキャンパスの外にあるアパートに独りでいました。あまりすることがなかったのでテレビのチャンネルを次々に変えていました。すると、ちょうど始まったばかりの映画を見つけました。

2, 3分もすると、わたしはこの映画がふさわしくないものだと分かりました。でも一瞬、「それがどうした。だれも見えていないさ。それに、テレビなんだから、最悪の場面は編集でカットされているはずだ」と考えたのです。

しかし、御霊はテレビを消すよう促しました。そこで、わたしは代わりに本を読むことにしました。

それから30分ほどたったころ、ドアをノックする音が聞こえました。わたしが所属する長老定員会の会員でした。ホームティーチングを担当している若い姉妹が病気で、祝福を求めていると言います。だれか助けてくれる人がいないか、電話をかけたリドアをノックしたりして、もう30分も探し回っていたそうです。そして、わたしの部屋のドアをたたいたのです。わたしは同行することにし、手早く日曜日の服装に着替えました。

病気の姉妹のアパートまで歩きながら、どの程度具合が悪いのか聞きました。彼は本人のルームメートから緊急の電話を受けて、すぐ来てくれと言われたこと以外は分からないとのことでした。

アパートに行ってみると、その姉妹の具合が良くないことは明らかでした。高熱があり、顔は青ざめています。ルームメートによると、この姉妹は数

時間前から具合が悪くて衰弱し、胃がむかついて食事がのどを通らないということでした。

わたしは油を注ぐものだとばかり思っていたのですが、長老定員会の兄弟に祝福の方を頼まれました。わたしは、自分はふさわしくないと感じましたし、何を言ったらいいのかも分かりませんでした。祝福を与えるのに備えて気持ちを整える時間などありませんでしたが、言うべき言葉を神が教えてくださるよう心の中で祈りました。

油注ぎが終わると、わたしはその若い女性の名前を呼んで祝福を宣言しました。健康が回復することを約束し、慰めの言葉を与えましたが、これはわたしの言葉ではありませんでした。そして、祝福を終えました。わたしたちが目を開けると、若い女性は満面の笑みを浮かべており、祝福を与えてくれたことに感謝していました。この女性は間もなく健康を取り戻して学校に戻り、その学期を終了することができました。

この経験を振り返ると、神権を持つ機会があったことに深い感謝の念を感じます。わずか10分ほどの出来事でしたし、病気だったこの若い女性は忘れてしまっているかもしれません。しかし、この経験はわたしにぬぐい去ることのできない影響を与えました。

御霊のささやきがあったことに感謝しています。そのおかげでわたしは誘惑を避け、霊的にふさわしい状態であることができました。それに、長老定員会の兄弟を、御霊がわたしの

アパートまで導いてくださったことにも感謝しています。

何よりもわたしは、優しく憐れみ深い天の御父に感謝しています。御父は役不足のわたしを力づけ、祝福のときに述べる言葉を教え、わたしにお与えになった言葉を実現してくださった



御霊は
テレビを消すよう
促しました。
それから30分ほど
たったころ、
ドアをノックする音が
聞こえました。

のです。ふさわしくしていれば、御霊はわたしたちを導き、周りの人に奉仕する備えができるようにしてくださることをわたしは知っています。■

ジョナサン・H・ウェスターバー
(アメリカ合衆国ユタ州)

人生の使命を **今** 果たす時は **今**

教会機関誌

ジャン・ビンボロー

3つの原則に従うならば、
もっと大きな
自信と力と信仰をもって
未来に立ち向かうことが
できます。

わ たしがヤングアダルトだったときは、自分の将来についてあれこれ考えながらたくさん時間を過ごしました。伝道と結婚、それに進学や就職についてまだ何も決まっておらず、どうすべきかほとんど答えを持ち合わせていませんでした。主がわたしに望んでおられる使命なら、何でも喜んで果たしたいと思っていました。ただしそれが何であるか分かればの話でしたが。

祝福師の祝福を受けて、この人生の大まかな目的はつかめました。何か太陽系の地図を見ながら食料雑貨店を探しているような気がしました。どこかで曲がる場所を間違えたりしないでしょうか。間違えたとしても主が準備しておられる使命を見いだし、果たすことができるのでしょうか。

その後、将来の不安に立ち向かうために助けとなる原則を3つ発見しました。それに従うならば、もっと大きな自信と力と信仰を持つことができます。

1. しばしの間

最初の原則は、今が大切だということです。

多くの初期の聖徒たちは1831年からおよそ7年間をオハイオ州カートランドで過ごしました。彼らは、ニュー

ヨーク州やペンシルベニア州に家や仕事や農場を残し、危険を承知のうえで、見知らぬ土地へ移動しました。そして主は彼らに、そこはあくまで仮の場所にすぎないことを告げられました。

「また、主なるわたしが彼らのために別の備えをして、彼らにここから出て行くよう命じるまで、わたしはしばしの間、彼らのためにこの地を聖別する。

その時もその日も彼らには示されない。それゆえ、彼らに、多年にわたって住むかのようにこの地で行動させなさい。そうすれば、これは彼らのために益となるであろう。」(教義と聖約 51:16 - 17)

わたしは、初期の聖徒たちが主の指示を聞いてから、直ちに仕事に取りかかる姿を思い描くのが好きです。彼らは収穫するかどうか分からない畑を耕しました。その実を口にするかどうか分からない果物の木を植えました。そして、最終的には去らねばならない場所に美しい神殿を建てたのです。いつまでも将来の不安について思い悩んだり、次はいつどこへ行くのだろうと気をもんだりすることなく、せっせと実り豊かな生活を送った聖徒たちの姿をわたしは思い描きます。彼らは「多年にわたって住むかのように」行動し、自分たちの働きが無駄に



カートランドに住んでいた初期の聖徒は「多年にわたって住むかのように」行動し、自分たちの働きが無駄にはならないことを信じていたのです。皆さんも主を信頼し、「多年にわたって」行動しようと思決心することによって、人生のあらゆる段階を楽しむことができます。

はならないことを信じていたのです。

1838年にオハイオ州を去るころには、聖徒は教会が将来成長するための堅固な基盤を築いていました。多くの実りを得たあの貴重な時期に、何が起こったか考えてみてください。

- 預言者ジョセフ・スミスが預言者の塾を組織し、聖書の靈感訳を完成し、多くの大切な啓示を受けた。
- 大管長会、十二使徒定員会、そして七十人が組織された。
- カートランド神殿が建設され、奉獻された。そこでジョセフ・スミスとオリバー・カウドリはイエス・キリストにまみえ、モーセ、エライアス、

エリヤから神権の鍵^{かぎ}を受けた。

- 最初の宣教師がイングランドへ派遣された。

ヤングアダルトの時期は、主からわたしに与えられた非常に貴重な「しばしの間」でした。ヤングアダルトの時期には、肉体的な力も精神的な力も最高潮に達します。主を信頼し、「多年にわたって」行おうと思決心するとき、この二つの力を最大限に発揮することができます。そうするとき、その年月は、他に類を見ない実りと成長、学びと奉仕にあふれる神聖な時期となります。

2. 日々の使命

2番目の原則は日々継続的に果たす役割があるということです。簡単に分かることですが、遠い将来の漠然とした役割を今果たすことはできません。

ブリガム・ヤング大管長（1801 - 1877年）はこう述べています。「教会の男女で使命を持っていない人はいません。その使命は生きているかぎり続きます。」¹ 言い換えれば、人生で果たすべきわたしの使命はすでに始まっていたのです。このことを見つけるといより、気づく必要があったのです。

それに気づいたのは、すでにわたしの生活の一部になっていた3つの要素を理解したからです。

- 自分に与えられた独特の賜物^{たまもの}
- 自分に与えられた独特の試練
- この世において必要とされ、主がわたしに應じるように望んでおられる具体的な事柄

簡単に言うと、これら3つの要素が重なり合うことを行うならば、いつでも召しを果たすことができます。旧約聖書に登場するヨセフの人生で、このことがどのように当てはまるか考えてみましょう（創世 37 - 47章参照）。

ヨセフにはたくさんの賜物がありました。神についての知識を持つ家庭で育ちました。また、アブラハムの聖約を受け継ぐ者でした。夢を解き明かす霊的な賜物も持っていました。

ヨセフはまた多くの試練も経験しました。その中には、父親の偏愛^{へんあい}、兄弟の嫉妬心^{しつと}、彼自身が兄弟とうまくやっていく知恵の足りなかったことなどが含まれるでしょう。ヨセフは若いころ異国に奴隷として売られ、不道德行為のぬれ衣を着せられ、投獄されました。

しかしヨセフは、自分の賜物と試練の両方を生かして、この世において必

要とされる具体的な事柄に応じるために自ら行動したのです。牢獄の中においてもそうでしたが、何度か、人々の夢を解き明かすために自分の霊的な賜物を使いました。この選択のおかげで、パロに仕える機会に恵まれ、エジプト人のために食糧を貯蔵しました。この責任を果たすに当たって、忠実かつ勤勉であったために、ヨセフは人々の命を救うという使命を果たすことができました。自分自身の家族だけでなく、多くの人々を飢えから救い出すことができたのです。

ヨセフの賜物と試練の組み合わせは、エジプトで起こった飢饉^{きんごん}に応じるという特異な立場にヨセフを置きました。ヨセフがそのような人物であり、そのような場所において、忠実かつ従順に行動することを選んだので、彼は主とエジプトの人々と自分の家族に仕えるという独特な召しを果たしました。

しかし、これら3つの要素が重なるのは、聖文の中に登場する人物だけではありません。わたしたち一人一人の生活の中で、しかも毎日重なっているのです。

文章を書く才能に恵まれているヤングアダルトの姉妹が、しばらくの間うつになったことがありました。彼女には10代の妹がいましたが、妹は学校で難しい状況に置かれていました。妹が落ち込んでいくことに気づいた姉は、御霊^{みたま}の促しに耳を傾け、妹に美しい手紙を何通も書き、愛と信頼を伝えました。特につらそうに見えた2週間は、毎日1通ずつ書き続けました。妹の必要を満たすという小さな選択をして、この若い姉妹は自らの使命を果たしたのです。

御霊に耳を傾け行動するという選択を毎日、毎週、毎年続けていくと、そのパターンはもっと大きくなり、やがて主がわたしたちに成し遂げるよう



エジプトのヨセフは、その賜物、試練、信仰のために、主と人々に仕えるという独特な召しを果たすことができました。この3つの要素はわたしたち一人一人の生活の中で、しかも毎日重なっているのです。

に望まれていた使命が認識できるようになるでしょう。

3. 静まって知れ

20代をとうに超えた今、やっと気づいたのですが、自分の人生は、何年も前に受けた祝福師の祝福に書かれているとおりに展開しています。それは、もちろん、自分が今何をしていて、将来、どのようになるかを正確に知っていたからではありません。逆に、ほとんど知らなかったのです。

わたしはこれまでの人生で、何度か変化や落胆を経験しました。その度に進むべき道から外れているのではないかと不安になりました。しかし、今にして思えば、心配する必要はなかったのです。主はわたしがどこにいるのか、また、わたしをどこへ行かせたいのか、いつも御存じでした。わたしはいつも主の戒めを守り、主に

仕え、御霊に耳を傾けるよう最善を尽くしました。その時その時には気づかないことが多かったのですが、わたしの人生は常に主の御手に導かれていたことを、今は理解しています。

ヤングアダルトの時代は、重大な決定をする時であり、この時期特有の不安やストレスに満ちています。しかし、主はわたしたちが主の目的をこの人生で果たすことができるように日ごとに導く力を持っておられます。その力に頼る習慣を身に付けるならば、もっと大きな確信が持てるようになります。そうすると「静まって、〔主こそ〕神であることを知るわたしたちの力が増します（詩篇46:10）。その結果として、わたしたちは平安を味わうことができます。■

注

1. ブリガム・ヤング『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』「伝道活動」、269 参照

自分の霊性を更新しましょう

全世界の教会でヤングアダルトは、2009年5月に行われたデビッド・A・ベドナー長老のファイヤサイドにおける説教「現在のことをありのままに」(今月号の22ページ参照)にこたえて、コンピューター、携帯電話、その他の科学技術をどのように利用しているか自己評価しました。ベドナー長老のメッセージにこたえることでどのような変化が起こったのか、また、その結果としてどのような祝福を受けたのかを幾つか紹介します。

焦点を当てる必要性

科学技術の中には、携帯音楽プレーヤーのように、それを使うと自分の周りで起



こっていることに集中できなくなるものもあります。ベドナー長老の話から、伝道に出る準備として、周囲の人々との交流に慣れる必要があるということが分かりました。たとえ楽しくても、科学技術にはあまり依存しないようにする必要があります。宣教師として、周囲の人々や主のために行う業に集中しなければなりません。

アンドリュー・ハーベイ
(アメリカ合衆国マサチューセッツ州)

人間関係を強める

科学技術を誤って使うときに生じる良くない結果は、ささいなことと思われる今日、ベドナー長老のメッセージは、時には軽く扱われたり、無視されたりするような種類のお話かもしれません。しかしわたしは、御

^{たま}霊と波長を合わせることを妨げるようなものは何であれ取り除くべきであると分かっています。例えば、わたしの携帯電話には、銀行の手続きが行えるなど、大変便利な機能が幾つか付いています。しかし、その他の機能は、ほとんどが時間を浪費させ、もっと大切なことからわたしの注意をそらしてしまうものです。



今、わたしは電子機器を使ってコミュニケーションを図るのではなく、直接、個人的に友人や家族を訪問するよう努めています。そのため、わたしと周囲の人々との関係は強くなっています。自分の人生でほんとうに大切なことは何なのかを、以前にも増して、正しく理解することができるようになりました。

リー・ユンヨン
(韓国ソウル)

自分との約束

わたしは自分が科学技術をどのように使っているのか調べてみたところ、生活の一部になりすぎているものがありました。わたしは与えら



れている時間を大切にし、賢明に使うことを自分と約束しました。コンピューターの前に座り、ネット上のつきあいにふけるのではなく、良書を読んだり、新しい技術を身に付けたりすることで、学ぶ機会を増やし成長したいと思っています。人々とともにより多くの時間を過ごすことで、友情をはぐくみ、楽しい時間を共有するようにします。

ルツ・バリリア(フィリピン、マニラ)



科学技術のわな

わたしは携帯電話関連の会社を経営しており、コンピューター・エンジニアでもあります。したがって、日常生活レベルで、科学技術とは切っても切れない縁があります。インターネット、ビデオゲーム、電子メディアや機器、これらはすべて本来ならば健康的な娯楽を提供してくれるはずですが、そのほとんどをわたしたちは良くない方法で使いがちです。

わたしたちが科学技術のわなに陥り、無駄なことに時間を浪費するとき、天の御父



はどのように感じられるでしょうか。わたしには想像できません。

わたしは、ベドナー長老の霊感に満ちた言葉に促されて、いつも科学技術を適切に利用し、自分の時間を賢明に使うという目標を立てました。

クリスチャン・アレハンドロ・セルリン
(ニカラガア、マナグア)

神の言葉

のきずなで結ばれる

教会機関誌

デビッド・A・エドワーズ

聖文はわたしたちにとってどのような意味があるのでしょうか。聖文について証^{あかし}を得るにはどうすればよいのでしょうか。聖文をよりよく理解するにはどうしたらよいのでしょうか。

世界各地にいる多くの10代の末日聖徒がそうであるように、ドイツベルリンステーク、ダーレムワードの若い女性は、毎朝学校に行く前にセミナーで聖文を勉強するために集まり、これらの疑問の答えを見いだしています。聖文を通して得た経験は生活に深い影響を与えてきました。そして彼女たちは自分の気持ちを積極的に人と分かち合う準備ができています。

聖文から得た答え

若い女性が聖文から得た大切な経験の一つは、聖文学習を通じて疑問の答えを見つけるということでした。

聖文を勉強していると求めていた答えが目飛び込んでくることがあると、16歳のサライア・グルーズ姉妹は語ります。「でも後になって同じところを読んでも、その聖句はたいてい二度

と同じように際立っては見えません。なぜなら、ほんとうに助けとなっていたのは、その聖句を読んだときに受けた思いと御^{みたま}霊だったからです。」

16歳のデニース・ライナー姉妹も似たような経験をしました。疑問があって聖典を開いたとき、開いたページに答えを見つけたのです。この経験は心に残りましたが、ほとんどの場合、「欠かさずに聖文を読む方が導きを受けやすくなるし、あらゆる疑問に対する答えをほんとうに見つけられます。」

聖文を通して一致する

この若い女性たちは、キリストの教会の聖徒としてわたしたちが一致するうえで聖文が助けとなると信じています。16歳のエリザベス・クラーク姉妹はこう述べます。「福音は聖文の中にあります。わたしたちは福音について議論したり、意見を強く主張し合ったりすべきではありません。原則は聖文の中であって、わたしたちが一致するのを助けてくれます。」

サライアは賛成してこのように語ります。「聖文のおかげで福音は世界

ドイツ、ベルリンの
セミナーの生徒が、
聖文について
意見を交換しました。



レスリーの好きな聖句

1コリント13:3-8。「たくさん
の大切な属性について述べているこの聖
句が好きです。」



デニースの好きな聖句

2テモテ2章。「パウロがテモテにあて
て、慰めの言葉をかけ、自分の様々な経験をつづっているこの手紙は素晴らしいです。
聖典の中で最も美しい章の一つだと思います。」



ドイツの首都ベルリンの
喧噪けんそうとした街中で、
セミナーの生徒たちは聖文の力を
学んでいます。



写真：トランプ、ア・ハルース、その他の聖文の教師の提供
写真：トランプ、ア・ハルース、その他の聖文の教師の提供
写真：トランプ、ア・ハルース、その他の聖文の教師の提供

共通です。世界のどこに行っても変わることはありません。教会に行くと同じ教え、同じ信条があるので、いつも安心できます。」

17歳のサラ・クラーク姉妹は、モルモン書が特に重要であると信じています。「モルモン書には福音が明確に示されているからです。モルモン書やほかの聖典の教えに従うなら、わたしたちは一致できますし、常に一致していられます。」

一致すると御霊を伴侶とすることができるとエリザベスは語ります。「福音に一致した生活をしていると、福音を学ぶときに御霊を感じる事ができます。争いがあると、まったく御霊を感じる事ができません。」

セミナーを通して理解を深める

この若い女性たちは、聖文をよりよく理解するうえでセミナーは欠かせなかった、と口をそろえます。「セミナーでは、聖典に登場する人々やその歴史的背景についてたくさんのお話を学びます」とデニースは述べます。

17歳のレスリー・ライナー姉妹はこう言います。「セミナーはわたしの生活の一部です。その大切さをよく知っています。まず自分で勉強し、その後皆で学ぶためにセミナーがあるのです。」

続けてサラは語ります。「毎朝セミナーで聖文を勉強するのがいつも楽しみです。証が強められてきました。特別な時間だと思います。」

サライアにとってセミナーは自分の思いを話せる場所となっています。「母がセミナーの教師なので、初めは自分の考えを述べることで

ないだろうと思っていました。」しかし、彼女はそんな心配をぬぐい去り、セミナーが福音に対する自分の疑問や考え、気持ちなどを安心して話せる、心の支えとなる場所であることを知りました。

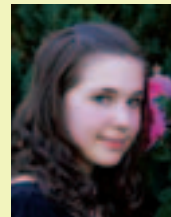
聖文の影響力

聖文はこの若い女性たちの生活に確かに影響しています。彼女たちはいろいろな方法で聖文を日々の生活に当てはめてきました。

例えば、聖文学習は自分の疑問だけでなく、人の疑問にも答えるうえで助けとなっています。エリザベスはこう語ります。「聖文とそこに書かれている原則を理解すれば、だれかが福音について何か質問してきても、自分が理解しているので実際によく説明することができます。原則を理解していれば、説明はずっと簡単になります。」

デニースは聖文を通して力と励ましを得てきました。「昔の人がどんな誘惑を受けたか、どのように乗り越えたかについて読むだけで、現代のわたしたちも力づけられます。聖典の中で福音のすべての祝福について読むと、忠実な人が受ける報い分かります。これを知っていることも助けになります。」

聖文が生活に与えた影響のおかげで、若い女性たちはさらに深い理解力と証を得る道を歩んでいると実感しています。そして、神の言葉を通して全世界の末日聖徒と一つのきずなで結ばれていると感じるのです。■



サライアの好きな聖句

教義と聖約 14 : 7。「天の御父から受けられる最も大なる賜物は永遠の命であることが強調されているので、この聖句が好きです。」



サラの好きな聖句

1 コリント 10 : 13。「とても素晴らしい約束です。おかげで、わたしはどんな試しにも耐えられることを常に覚えていられます。」



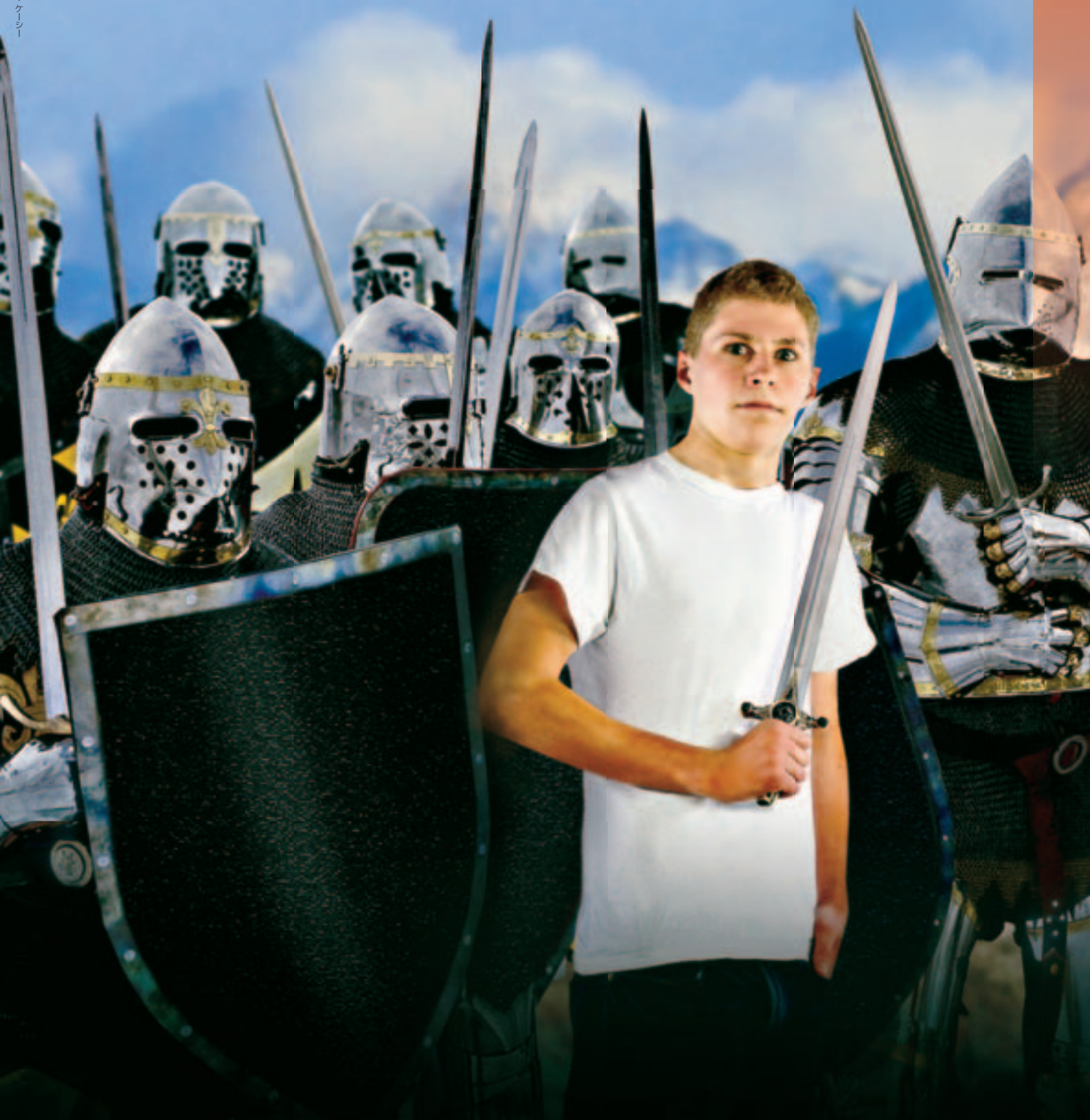
エリザベスの好きな聖句

教義と聖約 84 : 88。「主がいつもそこにいてくださり、守ってくださいとあります。慰めとなる聖句なので大好きです。」



準備はできていますか

戦いは始まっています。敵は待ってくれません。今こそ神の武具で防備を固める時です。
(エペソ6:11-18 参照)



カンニングする べきか、

せざる べきか



シェリー・アン・デラクルーズ

17歳の看護学生のわたしにとって、大学の2年目は大変でした。(フィリピンでは16歳で高校を卒業します。)ひっきりなしに行われる試験や研究プロジェクト、読書課題にすっかり疲弊していました。たいていは睡眠時間もほとんどないので、いつも目の下にくまがあるように感じました。過酷な勉強量でしたが、犠牲は「天の恵み」¹をもたらすことをいつも忘れないようにしていました。

一生懸命勉強すれば、よりよい将

来があることを知っていました。投げ出して勉強せずに寝たくなるときには、次の日の試験や課題の結果が悪かったらどれほど悲しく打ちひしがれた気分になるかを考えました。それだけで、眠気を覚まして勉強する気持ちを奮い立たせることができました。

クラスメートの多くはテストで悪い点を取ると悔しがるものの、熱心に勉強するのを嫌がりました。そのため、小テストや試験の間、教授の目を盗んで答えを見せ合い、「助け」合っていました。わたしも度々同じようにしたい衝動に駆られました。あえてしませんでした。教会員は高い標準を持つべきであると教会機関誌で何度も読んでいました。不正行為は標準に反します。そこで、わたしは一生懸命勉強して、誘惑に負けないようにしました。たとえお互いに助け合っているクラスメートよりも低い成績を取ることになってみてもです。

ある日、朝7時から夜の7時まで授業がありました。どの授業でも小テストが行われる予定でした。最初の小テストだけで10ページも勉強しました。「どうやって全部やり遂げよう」と思いました。幸い、最初の小テストはよくできました。昼休みに次のテストの勉強をしました。教室に行って小テストが始まると、一つを除いてすべての問いの答えが分かりました。「どうして？このテストのために一生懸命勉強したのだから、この答えも分かるはず」と内心思いました。

腹立たしい気持ちでペンをいすに打ちつけていると、ある考えが頭をよぎりました。ほんの一瞬あれば、頭の向きを変えて髪をかき上げ、クラスメートの答えを見ることができます。「今回だけ。そうすれば満点が取れるわ。1回くらい平気。一生懸命勉強しているのにカンニングしないからクラスメートよりも点数が低いなんて不公平よ！」それでもすっかりしない気持ちがありました。わたしはいす

試験の一つの問いの答えを
思い出せませんでした。
クラスメートの解答を盗み見ることは
とても簡単でした。

でもじもじしながら、不正行為をするかしないかのはざまに揺れ動いていました。

すると、心の中である声が聞こえました。「だめよシェリー！カンニングは間違っている、自分でも分かっているでしょ！」われに返ったわたしは、たとえテストで満点を取っても、手放して喜べないことに気がついたのです。天の御父はわたしが正しい選択をすることを期待しておられます。この選びこそがほんとうのテストだったのです。

ちょうどそのとき、日曜学校で学んだ聖句が心に浮かびました。「どうしてわたしはこの大きな悪をおこなって、神に罪を犯すことができました。」(創世39:9) わたしが数多くのテス

トや課題など無数のチャレンジを切り抜けられるよう、天の御父がずっと助けてくださったことを知っていました。どうして天の御父がしてくださったすべてのことを忘れ、罪を犯すことを選べるのでしょうか。

あのテストの結果がどうだったのか、今は思い出せません。答えを思い出すことができたかできなかったかも覚えていません。しかし、正しい選びができて心が穏やかだったことは、いつまでも覚えていきます。

今3年生になり、目の前には相変わらず山のような宿題と同じ誘惑が立ちまわっています。しかし、不正をしないことを選ぶのはもう難しくありません。誘惑に負けそうになったあのときに、もう決心したからです。熱心に勉強して成績を上げる方が、高い成績を得たときの喜びと満足感が大きいことが分かりました。悪事は決して幸福を生じたことはありません(アルマ41:10参照)。ほんとうの幸せは、戒めを守り預言者や教会の指導者の勧告に従うことによって得られます。「戒めを守る人を神は守り、導かん」²という言葉を中心に信じています。■

注

- 1.「たたえよ、主の召したまいし」『賛美歌』16番
- 2.「戒めを守る人を」『賛美歌』193番

わたしたちのスペース

わたしの好きな聖句

1 ニーファイ 3:7

この聖句を好きな理由は、主はわたしたちが自信を持ってるように助け、主の道を歩めば祝福し傍らにいてくださることを思い起こさせてくれるからです。■

リビオ・デ・ローサ (イタリア)



福音を分かち合うこと^{あかし}についての証

福音を分かち合うことは偉大ですばらしい業です。福音を分かち合うときに従順で誠実であるなら、天の御父とイエス・キリストが導いてくださいます。自分の知っていることが真実であると人に話すのをためらわないでください。福音を伝えたら友人や親が腹を立てるなんて考えないでください。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は、今は迷っていても鉄の棒を見つけようとしている人に真理を伝える責任がありますのです。■

ローズアン・ボリントン
(フィリピン)



絵 / ホル・マン

福音について学ぶ

子 供のころ、わたしはつましい家でほかの4人のきょうだいとともに、善良な両親によって育てられました。両親はわたしたちを愛し、わたしたちも両親を愛していました。両親は子供の欲しいものを何でも買う余裕はありませんでしたが、わたしたちに最善のものを与えたいと望んでいました。わたしたちが幸せになれるよう、二人は懸命に働きました。

もう少し大きくなって、わたしは自分が住むキリバス共和国にある、教会の学校に入学するために

家を離れました。父は、良い仕事を心得て家計を助けるために立派な教育を受けるよう助言してくれました。教会の学校に通ってしばらくすると、わたしはバプテスマを受けました。

教会員になって初めてしたことの一つはモルモン書を読むことでした。モルモン書を読むことは預言者ジョセフ・スミスに対する証あかしを強めるのに役立ちました。モルモン書が神の言葉であるなら、必然的にジョセフ・スミスは神の真の預言者であり、末日聖徒

イエス・キリスト教会は地上にあるまことの教会であると分かりました。自分の信じていることを家族に伝えたところ、数年後には母、弟、そして妹がバプテスマを受けました。

イエス・キリストの福音はわたしの人生を変え、神に仕え、同じ信仰を持たない人を助けたいという望みを抱かせてくれました。伝道に出て、人々を神のもとに連れて来るために働く機会があったことに感謝しています。■

ネーテチ・T・ラーバウア (キリバス共和国)

もう緊張していませんでした

ス テークのユースカンファレンスの活動で、宣教師に紹介できる人を見つけるためにパンフレットを配ることになっていました。わたしは『若人の強さのために』を読んでいました。活動が始まったので、一度テーブルに戻したのですが、冊子を持って行くべきだという気持ちがありました。わたしは冊子を取り上げ、聖典の中に挟みました。

知らない人に福音について話すことにだれもが緊張していました。庭で洗濯物を干している女性に立ち止まって声をかけると、とても気さくに応じて、パンフレットを1部受け取ってくれました。会話の中で、家族のことで悩んでいると話してくれました。特に息子さんが薬物などの問題を抱

えて苦しんでいるということでした。わたしたちは精いっぱい女性を慰めてから、別の場所へ歩き始めました。

それから数分して、わたしは聖典を開きました。『若人の強さのために』の冊子が目に留まったとき、女性が息子さんについて話していた言葉を思い出し、戻るべきだと感じました。わたしはもう緊張していませんでした。

女性はまだ外にいました。わたしは彼女が興味を持ちそうなものがあると、教会の青少年が従ってい



る標準について説明し、息子さんと一緒に読んでほしいとその冊子を渡しました。女性はうれしそうでした。息子さんを外に呼び出してくれたので、二人が宣教師と会う約束を取りつけることができました。

わたしは宣教師になった心地でした。

福音を教える機会があったこと、そしてあの少年を助けられるかもしれないことを考えると、胸が弾みました。冊子を持って行くよう告げてくださったのは聖霊であったことを知っています。■

ポーリス・アンチュネス (チリ)



遠距離の家庭の夕べ

ルイス・フェリペ・ビエラ・メソネス

家族でしっかりと家庭の夕べをしています。父はよく仕事で長期家を空けます。ですから、家庭の夕べのときに父がいないこともあります。

そこで2年前に父がノート型パソコンを買ったときに、きょうだいの一人が「インターネットを使ってお父さんと家庭の夕べをしたらどうかな」と提案しました。

以来、父が家庭の夕べに参加できないときは、みんなで時間を決めてインターネットに接続します。お互いに顔を見られるし、声も聞けます。インターネットとコンピューターのおかげで、父は家庭の夕べに参加できるようになりました。

わたしたちは決めたスケジュールを変更する必要がありません。父の出張とレッスンの順番が重なっても、父はその責任を果たします。毎週個人の目標を評価するのが家族の慣例なのですが、これも予定どおりできるようになりました。そしてもう一つ重要なこと、つまり家族でモルモン書を読むことも、そろって読めない理由がなくなり、今では途切れることはありません。

また父は別の用件でわたしたちと連絡を取るときにもインターネットを

使います。ペルーの家を留守にするときは、インターネットに接続して、わたしたちがどこで何をしているか知ることができます。そして出張中でも、面接や家族会議は決めておいた時間に行います。

科学技術には有益なものが多いのに、その悪用と弊害を恐れて、使わないことがよくあります。しかし、もしそのような技術を賢明に、慎みをもって利用するならば、それは大いに役立つものとなり得ます。

わたしたちはインターネットという素晴らしい手段のおかげで問題を解決し、家族がばらばらにならずに済んだことを、とても感謝しています。■

「インターネットを使ってお父さんと家庭の夕べをしたらどうかな」ときょうだいの一人が提案しました。

わたしはこのようにして知りました

あなたは すでに知っています

教会は真実だと信じていましたが、
わたしはいつその証^{あかし}を受けたのでしょうか。

エリザベス・スティット

ある日学校でクラスメートと話しているうちに、宗教の話題になりました。クラスメートは少しむきになって、わたしが信じていることを批判し始めました。

彼女はわたしに面と向かって言いました。「あなたは教会の教えの中で親に育てられたから教会を信じているだけよ。そうじゃなかったら、きっと信じてなんかいないわ。」

何と言いつつか覚えていませんが、言われたことをずっと考え、彼女がなぜそう言ったのか思い巡らしました。わたしは教会の教えの中で育てられ、実際、教会の教えや教義に疑問を抱いたことはありません。幼いときから教会が真実であると感じていました。バプテスマを受ける前でさえ家族でモルモン書を読んで、真実であると分かりました。ただ信じていただけではありません。知っていて、まったく疑いませんでした。しかしその証をいつ受けたのか、はっきりと特定することはできません。しばらくそのことで考え込みました。祈るとすぐに答えが飛び込んで来るような特別な経験

をしたと思いましたが、そのようなことは起こりませんでした。

しかしわたしの証がいつ確かなものになったのかは、はっきり知ることができました。高校に入学して1年が過ぎたとき、教会の青少年と教会史跡巡りの旅行に行ったときのことで。聖なる森に着いたとき、ツアーガイドが、そこで起こった出来事、つまり父なる神とイエス・キリストがジョセフ・スミスに現れ、回復の業に着手されたことが真実であるという確信を自分で得るように促しました。わたしは森の中で静かな場所を見つけ、最初の示現の記述を読みました。それからひざまずいて祈りました。最初の示現が実際にあったことやジョセフ・スミスが預言者であったことはすでに知っていました。それでもわたしは祈りました。祈り終えても、何も起こりませんでした。心を揺さぶられることもなければ、示現が開かれたわけでも天使が現れたわけでもありませんでした。

まったく何も起こらなかったのです。

わたしは岩を見つけて腰かけ、祝福文を開いて読み始めました。祝福文には福音の回復についての記述があり、頭の中に次の言葉が繰り返し聞こえてきました。「あなたはすでに知っています。あなたはすでに知っています。」

友人がわたしの信じていることを否定しようとしたあのときに戻れたとしても、教会が真実であることをどのように知ったのか上手に説明できるかどうか分かりません。しかしこう言えたらよかったです。親が真実だと確信していることを教えてきたとしても、わたしも自分で答えを見つけなければならなかったのだと。実際わたしは自分で見いだしたのですから。

教会が真実であることを知るために、聖なる森に行く必要はありませんでした。また教会が真実であることを知るために、特別な経験をする必要もありませんでした。ただ思い出す必要があっただけです。「あなたはすでに知っています」ということを。■

このテーマについてさらに知りたい方は、www.conference.lds.org からニール・L・アンダーセン長老の2008年10月の総大会の話「あなたは十分に知っています」を参照してください。

「長いこと祈りと聖文の学習を続けてきましたが、
どうしても疑問の答えが得られません。
なぜ主はわたしに証^{あかし}を与えてくださらないのでしょうか。」

劇

的で、奇跡的とも言える経験を通して証を得たという人もいます。しかし多くの場合、証は静かに少しずつ得られるものです。力強い霊的な確証を受けていないからといって、がっかりしないでください。信じたいと望むことで、すでに証を得る最初の一步を踏み出しているのです(アルマ書 32:27 参照)。天の御父はあなたを愛し、あなたに証を授けることを望んでおられますが、御自身の時と方法に従ってお与えになります(教義と聖約 88:68 参照)。

証を受ける方法は人によって異なります。「胸の内に燃えるもの」を感じる人もいれば(教義と聖約 9:8 参照)、聖霊によって思いと心に真理を告げられる人もいます(教義と聖約 8:2 参照)。また御霊の静かな細い声によって確証を得ることもあります。このような穏やかな促しを認識できるように、天の御父に祈ってください。

証を得る有力な方法は、人に福音を伝える機会を持つことです。福音の真理を教えるときに、御霊は相手の人だけでなくあなたにも、あなたの言葉が真実であると証することができるからです。

主の答えを忍耐強く待ちながら、信仰と誠意をもって祈り続けてください。戒めを守っていれば、証の源である聖霊を伴侶とするにふさわしくなるからです。

常に祈る



気持ちはよく分かります。わたしには証が揺らいで大変な時期がありました。それを何とか切り抜けて今のような強い証が得られたのは、絶えず聖文を学び、祈ったからです。機会があればいつでも聖文を読みました。御霊を感じられるように懸命に朝晩祈りました。それなのにすべてが無駄のような気がしました。しかしある日、学校から帰宅して、ベッドのわきでひざまずきました。どれくらい祈ったか分かりませんが、答えを受けたのです。いつも祈ってください。聖文を学んでください。求めている答えが必ず見つかります。

クリストファー・W, 15歳 (アメリカ合衆国ネバダ州)

真剣になる



天の御父は、祈る前からあなたの思いを御存じです。あなたが真剣な祈りによって御前で疑問を打ち明けるのをただ待っておられます。わたしには主が祈りにこたえてくださるという自分の証があります。すぐに答えが得られるかもしれませんが、少し時間がかかるかもしれません。しかし必ずこたえてくださることをわたしは心から確信しています。忍耐強く、忠実であり続けてください。

シャロン・F, 20歳 (ナイジェリア, ラゴス)

聖霊に耳を傾ける



知恵を必要としているときには、導きを求めて祈ってください。天の御父はすべての祈りを聞いてこたえてくださいます。答えは聖霊の促しによってもたらされます。信仰をもって祈り、謙遜で、戒めを守り、ふさわしい状態で聖餐を取り、聖文について深く考える時間を取って、主の御心を忍耐強く求めてください。

アナ・マエ・R, 20歳 (フィリピン, ダバオ-オリエンタル)

証を述べる

求めるだけでなく、まだ確かな答えを受けていなくても、知りたいと望んでいることについて証を分かち合うべきだと教会指導者は教えています。わたしは証を求めて何度も祈りましたが、福音と回復について自分の証を人に伝えるまで、求めている確証を得ることができませんでした。確固とした証を得ていなかったのに、聖霊から明確で、穏やかで、力強い確信を受けることができたのです。

証を分かち合えば、主はあなたの証を強めてくださることを知っています。

アウラ・O, 18歳 (コロンビア, フィラ)

断食と祈り



断食と祈りは証を養う霊的な土壌となり、あなたの証はあらゆる試練と誘惑に屈しない強さといかり 錨いかり になってくれます。証

は継続的な努力によって得られます。勤勉さが真理を感じやすくしてくれるからです。何度も、アルマのように断食する必要があります (アルマ5:45 - 46 参照)。初めは小さな証でも、祈りと聖文研究を続けるうちに、信仰の実が見えてくるはずですよ。

ズビエタ長老, 20歳 (コロンビア, カリ伝道部)

神聖な啓示を求める

新会員のときに、神殿へ行き先祖のバプテスマを受ける機会を得ました。この神聖な儀式を執行するために水の中に立っていると、死者のためのバプテスマが神によって定められたものであることを強く感じました。それ以来、死者のためのバプテスマに対する証を強めることができました。わたしは、証は信仰を持つ人に与えられる神聖な啓示であると理解しています。証を得るためには、祈り、聖文を学び、イエス・キリストの教えに従わなければなりません。あらゆる証の根底には義にかなった生活が必要です。そうでなければ、御霊がこの時代の主の業について証することができないからです。

マリアム・N, 19歳 (ガーナ, アクラ)

決してあきらめない

証を得るには時間を要することがあります。動かぬ証を得るためにできることはたくさんあります。ただ、祈りに対する答えを天の御父に願って求めることを決してあきらめてはいけません。

ウィルベン・G, 18歳 (フィリピン, ベングエット)

忍耐する

祈りに対する答えがすぐに得られないことが時々あります。答えを得るには時間がかかるかもしれませんが、望みに応じて与えられます。忍耐は聖徒の資質の一つです。祈り、聖文を学び、戒めを守って、人の証に耳を傾けることをやめなさい。また聖霊の促しに細心の注意を払ってください。祈りの答えは、思ってもいないときに与えられるかもしれません。

チオマ・O, 15歳 (ナイジェリア, アビア)

安らかにする

天の御父はいつも喜んでこたえようとしておられます。しかし、わたしたちが抱えている問題のために、求めている

答えが得られないことが時々あります。証を得る最も良い方法は、肉体的にも霊的にも安らかにすることです。そうすることで、祈ったり聖文を学んだりしているときに、答えを受けやすくなります。

モニカ・N, 19歳 (ペルー, リマ)



燃える証

「祈っただけですぐに証が得られると思うのは虫がよすぎます。……

学ぼうとしている福音の原則に含まれる真理に

ついて、研究するだけでなく真剣に思い巡らしてください。熟考し、祈りを込めて試してみてください。自分が知っていること、感じていることと関連づけて考えてみましょう。そうすればあなたが学ぶ真理はすべて、最終的に、一片の疑いもない燃えるような証に集約されるでしょう。」

十二使徒定員会

ロバート・D・ヘイルズ長老

「個人の証を得る」

『聖徒の道』1995年1月号, 23 - 24

質問

「受けている試練が、自分が向上するのに役立つためにあるのか、それとも誤った道に進んでいると告げる天の御父の警告なのか、どうしたら分かるでしょうか。」

あなたの意見を聞かせてください。2010年7月15日必着で下記まで郵送か電子メールでお送りください。

Liahona, Questions & Answers 7/10
50 E. North Temple St., Rm. 2420
Salt Lake City, UT 84150-0024, USA
電子メールアドレス —— liahona@ldschurch.org

掲載される際、誌面の都合上、あるいは明瞭な表現にするために編集されることがあります。

電子メールまたはお手紙には、以下の情報と署名入りの許可文を必ず明記/同封してください。(1)氏名、(2)生年月日、(3)ワードまたは支部、(4)ステークまたは地方部、(5)意見と写真の掲載を許可する、あなた自身の署名(18歳未満の場合は、親の署名)。

携帯電話やメールを

携帯電話, 電子メール, 携帯メールなど,

友達や家族と話すのに便利なものがたくさんあります。

それらを使うのがふさわしいのは、どんなときか知っていますか。

1 おばあちゃんから誕生日プレゼントをもらいました。お母さんはお礼のカードを書くように言いますが、あなたはカードの代わりに電子メールで済ませたいと思っています。さて、どうしますか。

- a. おばあちゃんに電子メールを送る。
- b. おばあちゃんにカードを書いて送る。

2 メアリーから誕生日パーティーに来てほしいという電子メールをもらいました。あなたはこのメッセージを、親友のサラに送りたいと思っています。どうしたらいいでしょうか。

- a. もらった電子メールを転送して、サラにもパーティーのことを知らせる。
- b. 自分あての電子メールは、ほかの人に送らない。

3 家庭の夕べの時間になりました。でも、あなたはレッスンはじまるまではコンピューターゲームを続けたいと思っています。さて、どうしますか。

- a. 家族が開会の歌を歌っている間にゲームを終わらせる。
- b. コンピューターの電源を切り、家族と一緒に歌う。

4 緊急時のために両親から新しい携帯電話をわたされました。友達に電話をかけて、自分が携帯電話を持っていることを学校の仲間

- に知らせたいと思っています。さて、どうしますか。
- a. 新しい携帯電話を自慢するためだけに、友達何人かに電話をかける。
 - b. 携帯電話をかばんの中にしまっておく。

5 友達クリスティーナからサッカーをしようときそわれたとき、あなたは友達

- のジェーコブと携帯電話でメールをしていました。さて、どうしますか。
- a. クリスティーナにはあした遊ぼうと言って、ジェーコブとメールを続ける。
 - b. ジェーコブには後でメールをする



つか 使うときのマナー

1 電子メールは手軽にメッセージを送ることができます。でも時間を取ってお礼のカードを書き送るなら、あなたがどんなにおばあちゃんを愛しているか、またプレゼントをどんなに喜んでいるかをおばあちゃんに伝わるでしょう。あるいは電話で直接お礼を言うのもいいでしょう。

2 友達からの電子メールをほかの友達に送るのは、秘密を教えるようなものです。

まえのページの質問に、あなたが a と答えたものはありましたか。もしあったなら、これらの提案を参考にして自分の携帯電話や電子メールの使い方を改善しましょう。

友達ともだちの送おくったメッセージがあなただけに向けたものなら、それをほかの人に転送てんそうしないでください。そうすれば、サラがパーティーに招待しょうたいされていない場合でも、サラは傷きずつかずに済すむでしょう。

3 コンピューターゲームは確かにおもしろいものですが、家庭の夕べはもっと大切です。開会の歌に参加さんかしましょう。コンピューターゲームはまた後あとでしましょう。

4 両親りょうしんが緊急用きんきゅうように携帯電話けいたいでんわを買かってくれたなら、友達ともだちに電話でんわするために使つかってはけません。それに、あなたが携帯電話けいたいでんわを見せびらかすことで、ほかの子供こどもにいやな思おもいをさせるかもしれません。

5 その場ばにいない人と会話かいわするのは楽しいことですが、友達ともだちと直接ちよく接せつ会あって時間じかんを過すぎすことはもっとすばらしいです。コンピューターを使つかう時間じかんを決きめて、友達ともだちとおたがいの顔かおを見みながら過すぎす時間じかんを取とれるようにしましょう。■



ジャマイカのリズ

メガン・ウィザーズ

ジャマイカ、キングストン市内で、暖かい夕方には、サミュエル（10才）とジョルデーヌ（7才）が2人の弟と一緒に家の外でスキップしている姿が見られるかもしれません。4人でスキップしながら、リズムに合わせて歌っています。

- 1, 2, 3, ルルおばさん
- 4, 5, 6, ルルおばさん
- 7, 8, 9, ルルおばさん
- 10, ルルおばさん
- 10, ルルおばさん



サミュエルとジョルデーヌの二人は、得意なことがたくさんある明るい子供です。スポーツをするのが大好きで、学校では一生懸命勉強しますし、家ではいろいろなお手伝いもします。二人のかがやくような笑顔や楽しげな態度は、周りの人たちの模範となっています。

学校生活

ジャマイカの学校では毎年、「男の子の日」と「女の子の日」があります。「女の子の日」には、男の子は学校に行きません。その代わりに、お母さんが自分のむすめと一緒に学校に行くのです。そして一緒にタレントショーやスペリング（単語のつづり）コンテストなどの楽しい活動を行います。

ジョルデーヌはクラスを代表してスペリングコンテストに出場し、優勝しました。「いちばん好きな単語のつづりは environment（環境）なの」とジョルデーヌは言います。

「男の子の日」になると、今度はお父さんがむすこと一緒に学校に行きます。サミュエルは作文コンテストに参加しました。自分自身とほかの人をどのように敬まっているかについて作文を書いたところ、最優秀賞を取りました。

ムに合わせてスキップ

神殿訪問

サムエルは神殿に入れるのを楽しみにしています。ジャマイカには神殿がないので、ジャマイカに住む多くの家族にとって神殿に行くことは大きな喜びです。神殿に入るためにアメリカ合衆国に行くには、たくさんのお金が必要なのです。

めぐまれたことに、サムエルとジョルデーヌの家族は神殿に行くことができました。サムエルはこう言います。「家族で行った旅行の中でいちばん楽しかったのは、おばさんに会いにニューヨーク市に行ったときです。みんなでマンハッタン神殿を見ました。ほくが神殿を見たのは、そのときだけです。」

2008年にパナマ・パナマシティー神殿ができたとき、家族はみんな大喜びしました。パナマシティー神殿に行くのは、それまでに比べると大変ではないからです。今では、ジャマイカの会員たちは1年に1回か2回、パナマシティー神殿に行きます。「12才になって神殿に入るのが待ち遠しくてたまりません」とサムエルは言います。



すばらしい二人の先生

サムエルは大きくなったら先生になるのが夢です。自分が最も得意な算数と理科を教えたいと思っています。お兄ちゃんを尊敬しているジョルデーヌもまた先生になりたいと思っています。

サムエルとジョルデーヌは、友達のすばらしい模範であるという点で、すでに先生です。二人が通う学校には、教会員である子供がほとんどいません。

「だれかがけんかしたり、ほかにも何か善くないことをしたりしていたら、正しいことをするように言います」とサムエルは言います。

サムエルとジョルデーヌは自分のあかしを人に話すことが好きです。初等協会の会長は、お話の割り当てを受けている人が休んだときには、

二人にたのめば大丈夫だと知っています。日曜日の朝、二人はいつもより早めに起きて、お話をする必要のあるときのために準備します。

サムエルとジョルデーヌはすべてのことについて主に忠実に仕えようと心がけています。ジョルデーヌはこう言います。「信仰をもっていればほろびないだけではなくて、天のお父様やイエス様とまた一緒に住むことができると知っています。」



いのりの答え

あるとき、お父さんの会社が倒産することになりました。ジョルデーヌは、天のお父様に助けを求めようと家族に呼びかけました。「ジョルデーヌはとても熱心においのりをします。そして、わたしたち家族が助けをいのり求める必要があることについていつも思い起こさせてくれます」とお母さんは言います。家族のいのりはこたえられ、お父さんは新しい仕事を見つけることができました。「おいのりをすれば、どんなことでもうまくいって知っていました」とジョルデーヌは自信をもって言います。

主の側に立つ

大管長会第二顧問
ディーター・F・
ウークトドルフ管長



わたしは子供のとき、ドイツのツビッカウに住んでいました。おばあさんの友達に、さらさらの白髪をしたエイビグしまいという人がいました。かのじょがおばあさんを教会にさそってくれたのです。家族みんなで教会に行ってみると、たくさんの子供たちがいました。わたしたち家族はみんな、そこで耳にした音楽、特に歌に感動しました。中でも「光となるように」という歌が、わたしの心に深く残りました。¹ その歌を歌うとイエス様をととても近く感じました。イエス様はわたしに光となるように望んでおられることが分かりました。わたしはその歌が今も大好きです。わたしに救い主についてのあかしをあたえてくれました。

まだ6才だったわたし以外の家族全員がバプテスマを受けて末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になりました。わたしは8才になった

とき、町のプールでお父さんからバプテスマを受けました。

わたしが11才のとき、家族でドイツを出なければならなくなり、西ドイツのフランクフルトに引っこしました。わたしはフランクフルト支部につどいました。そこはツビッカウの支部ほどは大きくありませんでした。フランクフルトの集会所は小さく、地下室でクラスが開かれました。宣教師たちが大切な福音の原則を教えてくださいました。

ストリングム長老という宣教師から高価な真珠について、特にモーセが「あなたは神の子である」と告げられた箇所について習ったとき、とても感動しました(モーセ1:3-4を見ましょう)。ストリングム長老から学んだもう一つのことは「もし、神がわたしたちの味方であるなら、だれがわたしたちに敵し得ようか」という聖句です(ローマ8:31)。こ

の聖句はわたしになぐさめと勇気をあたえてくれました。それは当時のドイツでは、将来が厳しいものに思えたからです。フランクフルトの町は、ばくだんで破壊されたビルが並ぶはいきよでした。そのとき受けた教えはわたしが生きていくうえでずっと支えになりました。主の側に立たなければならぬことを教えてくださいました。主の側に立たずに自分の力でやっていくことなど、とてもできないのです。

子供のみなさんに預言者の言葉に従ってほしいと思います。もしそうするなら、みなさんは自分の疑問への答えを見つかるでしょう。それは6才でも9才でも、11才でも、19才でも、そしてわたしのように69才でも同じです。■

注
1. 「光となるように」『子供の歌集』60

特別な宣教師

ウークトドルフ管長がそうだったように、あなたが今、
教会員であるのは、特別なだれかがあなたの家族の
だれかに福音について教えてくれたおかげです。あなたの
家族の中で最初に教会員になった人はだれか、お母さんか
お父さんに聞いてみてください。そして家族で最初の改宗
者に福音を教えてくださいました人を見つけて出してみてください。
次の事からについて、できるだけ調べて書き入れましょう。

家族の中で最初の教会員

その人が教会員になった日付

その人が教会に入った場所

その人がどのようにして教会について知り、あかしを得たか

その人に福音について教えたのはだれか



イエス様の光となる

ウークトルプ管長は初めて教会に行ったとき、「光となるように」の歌を聞きました。親切な行いをしたり、お礼の言葉を書いたカードを渡したりすることによって、あなたは家族の中で光となることができます。

1. 太陽の絵の上にうすい紙を乗せて形を写し取って切り取ります。
2. 切り取った太陽の片面に家族の一人の名前を書いて、あなたがいちばん好きな明るい色をぬります。
3. 裏面に、名前を書いた家族があなたのためにしてくれたことについて感謝の言葉を書きます。
4. その家族のために、内緒で親切な行いをしましょう。例えば、ベッドを整えたり、服をたたんだりした後、メッセージを書いた太陽を置いておきます。

せいいいは すべてのことの しんりを あかしされます。

サンドラ・タナー、クリスティーナ・フランコ

モルモン書の中に リーハイと そのかぞくの
話があります。天のお父さまは やくそくの
地に そなえられた 新しい すまいへと
リーハイたちを みちびかれました。そのとき リーハイ
は かみさまから すばらしい おくりものを いただき
ました。それは、2本の はりのついた 丸い玉で、
「すすむべき ほうこうを さして」いました(1ニーファイ
16:10)。リアホナと よばれる この玉は、「わたしたち
が、それに よせる しんこうと ねついと ちゅう
うい方に おうじて はたらいた」と ニーファイは

言っています(1ニーファイ16:28)。リーハイの かぞ
くは、リアホナの しめす ほうこうに したがうことを
学びました。

わたしたちは、バプテスマと かくにんの ぎしきを
うけるときに、すばらしい おくりものを いただきます。
それは、せいいいの たまものです。せいいいの たま
ものは、リアホナに にています。わたしたちは、せい
れいに したがうことを 学びます。せいいいの みち
びきに したがうならば、わたしたちは いつか 天の
お父さまと イエス・キリストさまの ところに もどっ
て、ともに すむことができるのです。

2010年6月 せいぶん日記

モロナイ10:5をよみましょう。

せいいいが たすけてくださることが わかるよう
に 天のお父さまに いのりましょう。

モロナイ10:5をあんきしましょう。

下の かつどうの 一つか、自分で 考えた
かつどうを 行いましょう。

- ほかの人が モロナイ10:5を あんきでき
るように たすけましょう。
- 65ページにある リアホナの はたら
きが 書かれた 絵を 切りとって、
あつ紙に はりましょう。そして リ
アホナの 絵も 切りとり、点線の
ぶぶんを 2かしょ 切りぬき、二
つの絵を とめがねで とめ
ます。切りとった まどから
しつもんを よ読み、はんたい
がわの まどに 書いて

ある せいくから 答えを みつけてください。そ
の答えを せいぶん日記に 書きましょう。

- せいいいを かんじたときのことを 日記に
書いてください。せいいいの たすけに 気づ
いたけいけんを おぼえておくと、これからも、
せいいいの みちびきに 耳をかたむけ、した
がいやしくなります。
- せいいいの みちびきに したがったときの
けいけんについて りょうしんや 先生、友
だちに 話してもらいましょう。

自分がした かつどうについて、日記
に 文を書くか、絵をかきましょう。
そのかつどうは、モロナイ10:5を
りかひするの に どのように やく
立ちましたか。■



わたしたちのページ



ヘネシス・M, 7才 (コスタリカ)



ある日の午後、妹のカミリアとわたしがあそんでいると、お父さんがしばかりをしていました。そこでわたしたちは手つだうことにしました。とてもあつい日でしたが、いっしょに楽しくはたらきました。しばかりがおわると、お父さんはきんじよのおばあさんのところにしばかりきをかえしに行きました。そこでお父さんは、「おたくのしばかりもしましょか」と言いました。わたしたちも手つだうことになり、お父さんがかったしばをあつめてふくろに入れました。しばかりがおわると、おばあさんは「ソフィアとカミリア、にわをきれいにしてくれてありがとう。何て親切でやさしい子たちだろうね」と言って、あめをくれました。わたしたちはとてもしあわせな気持ちで家に帰りました。あめをもらったからだけではありません。きんじよの人のお手つだいができてうれしかったからです。

ソフィア・カロリーナ・P, 9才 (アルゼンチン)



インドのバンガロール地方ちほうにあるチェンナイにだいにしぶに つどう しょうきょうかいの子どもたちと そのしどうしゃたちは、せいさん会での 子どもの はっぴょうのじゅんびをしています。



カンボジアに すんでいる7才の ゴック・フィエン-Dは モロナイと じゅうのはたの 話が すきです (アルマ46しょうを見ましよう)。ゴック・フィエンには 6人の きょうだいがいて、風船で あそぶのが すきです。

小さいころ、休み時間になる
とわたしはよく外で

遊びましたが、休み時間が終わると列を作って並ばなければなりません。そのときわたしはいつも「神殿に行きたいな」(『子供の歌集』99)を歌っていました。すると、ある日わたしのとなりにおんなの子が「それともずてきな歌ね。どこで覚えたの」とすねてきました。

「初等協会で習ったの。わたし、末日聖徒イエス・キリスト教会に通っていて、神様を信じているの」と答えました。それからその子と大の仲良しになりました。

ノエミ・D、12才 (フランス)



右上—写真リチャード・M・ロムリー、中央—絵アバローン



トゥアン・アイン・P、11才 (カンボジア)

「わたしたちのページ」に 絵や しゃしん、
けいけんだんや あかし、手紙を おく
りたい人は、けんめいの ところに「Our
Page」(わたしたちの ページ)と書いて、電子
メールで おくってください。おくり先は
liahona@ldschurch.org です。ゆうそうする
ばあいは、下の あて先に おくってください。

Liahona, Our Page
50 E. North Temple St., Rm. 2420
Salt Lake City, UT 84150-0024, USA
応募の際には、必ず子供の氏名、性別、年齢、
それに親の名前、ステーク/地方部、ワード/支部
名を明記し、子供の写真や提出物を使用する許可
書(電子メールで可)を添えてください。紙面の
都合上、あるいは明瞭にするために、編集される
ことがあります。

かべに うつる かげ

「おさない子どもたちよ、
おそれてはならない。
あなたがたは わたしのものであり、
わたしは すでに
よに かって……いるからである。」
(きょうぎ せいやく
教義と聖約 50:41)

パトリシア・R・ジョーンズ

ほんとうの話をもとに 書かれました。

「お母さん、こわいよー！」デジレーが さげび
ました。

デジレーの へやに かけつけた お母さんが
電気をつけると、デジレーが おびえた 顔をして、
おそるおそる へやの すみを見つめていました。
こわいかげが見えたというのですが、そこには 何
もありません。

「その すみに オオカミが見えた 気がする
の」と デジレーが 言いました。

お母さんは デジレーを だきしめて、なだめながら
こう 言いました。「電気を つけたけれど、何も
見えないわよ。」

デジレーが おちついたので、お母さんは 電気を
けて 自分の へやに もどりました。デジレーは
目を とじて ねむろうとしましたが、かた目を あ

けて かべを見ると、まだ オオカミの かげが
うつっているではありませんか。

「お母さん！」デジレーは また 大声で さげ
びました。

電気を つけた お母さんの 顔に、こんどは
ほほえみはありませんでした。お母さんは つかれた
ようすで こう たずねました。「デジレー、少し前
に、テレビで どんな番組を見ていたか、おぼえ
ている？」

デジレーは こくと うなずきました。オオカミの
番組を見たのです。

お母さんは、デジレーの ベッドに こしかけて
こう 言いました。「わたしたちは 自分が見るもの
から えいきょうを うけるのよ。思いや 行い、
それに 気もちまでもね。」



「でも オオカミの 番組は
わるい番組では なかったわ」と
デジレーが 言いました。

「わるい 番組でなくても、テレ
ビで 見たことは、思いに えい
きょうを あたえるものなのよ。

あなたが 今 かんじている 気
もちは、 今日 見た 番組の
せいだと思おうわ」と お母さんが
話してくれました。

デジレーは お母さんが 言っ
たことを よく 考えてみました。
自分が 見たものから えいきよ
うを うけるなんて、それまで
考えたことも なかったからです。

「わあ。これからは もっと
ちゆういして、見るものを えら
ばないと いけないわね」と デ
ジレーが 言いました。

「それは とても いいことだ
と 思うわ」と お母さんは ほ
ほえみながら 言いました。

「でも 今日 は どうすれば
いいの？ まだ こわい。」

「いい 考えが あるわ」と
言うとき、お母さんは つくえの
上にあつた イエス・キリストの絵
を 手にとって、がくから はず
しました。そして、デジレーが
こわい かげが見えるという か
べに はりつけてくれたのです。
「イエスさまは いつも あなたの
ために そこに いてくださるわ。
こわくなつたら そのことを 思
い出してごらんさい。」

お母さんが 電気を けすと、
デジレーの 心は あたたくなくな
りました。お母さんの 言ったこ
とは ほんとうだと 思いました。
イエスさまは いつも 見まもり、
たすけ、おそれを とりのぞいて
くださるのです。■



「おそれることはありません。
ただ しん
じてください。……わたし
たち すべてのものの お
んじである かみを しん
じてください。……しゅ
イエス・キリスト、すなわち

かみのおん子を しんじてください。」

ゴードン・B・ヒンクレーだいかんちょう
(1910 - 2008 年)
「おそれることはない。ただ信じなさい」
『リアホナ』2000 年 10 月号, 28

てんの おとうさまは きいて いられます。

「しゅは ごじぶんの たみの いのり……を
きかれた。」(モーサヤ 27:14)

アリソン・グラハム・イングラッド

ほんとうに あった おはなしを もとに かかれました。

1.

もう じゅんぴ
できているよ。

デボン、おいのりの
じゅんぴをしましょうね。

2.

そうかしら。ひざまずいて、うでをくんで、
めをとじておいのりするんでしょ。
それからじっとしないといけないわ。
そうやっててんのおとうさまに
そんけいのきもちをあらわすのよ。

そこでデボンはおもちゃのトラックを
おいて、うでをくみ、おかあさんの
となりにひざまずきました。

3.

てんのおとうさまは
どうやってほくのおいのりを
きいてくださるの？
おみみがあるの？

そうよ。おみみをもっていらして
あなたのおいのりを
きいていてくださるのよ。

4.

デボンはおいのりをしたあともすこ
しのあいだひざまずきあたまをさげ
うでをくんだままでいました。

へんじがきこえないよ。
おかあさん、ほんとうに
てんのおとうさまは
きいてくださっているの？

てんのおとうさまは
みみできこえるようなへんじではなくて、
わたしたちのこころやおもいにはなしかけることによっ
ておいのりにこたえてくださることがおおいのよ。
せいれいをとおしてね。

5.

デボン、ほかのひとと
なかよく わけあうとき
どんな きもちが するかしら。

うれしいきもちが
するよ。

たとえば おもちゃを なげるとか
わるいことを したら どうかしら。

いやな きもちが する。

せいれいは
ただしいことと まちがっていることが
わかるように たすけてくださるのよ。
それから、もっと しあわせに なるためには
どうすればよいかか わかるように
たすけてくださるの。

7.

てんの おとうさまの
こえが きこえないからといって
おいのりを きいてくださっていない
ということではないのよ。
わたしは ここにいますよと しらせるために、
あたたかい、よいきもちを あたえてくださるの。

てんの おとうさまが わたしたちの おいのりを
きいてくださることを する ほうほうが ほかにも あるわ。
おばあちゃんが しんけんの しゅくぶくを うけたとき
きぶんがよく なるように てんの おとうさまが
たすけてくださったことを おぼえているでしょ。

6.

うん、おばあちゃんが
きぶんがよくなって
うれしかった。

それを きいた デボンは
うれしくなりました。

てんの おとうさまが
ぼくの おいのりを
きいてくださることが
よく わかったよ。

8.



親の皆さんへ

- 静かにできる時間と場所を見つけて、子供と一緒にこの話を読んでください。天の御父が祈りにこたえてくださった個人的な経験を話して聞かせてください。そのときどのような気持ちでしたかも話してあげましょう。
- この話に登場する母親のように、子供が聖霊の導きに気づくことができるような問いかけをしてみてください。できれば、子供が最近経験したことを例として使うとよいでしょう。
- 子供とともにこの活動を行った後で、次に子供が祈るときに、良い態度で祈ることができるように助けてください。

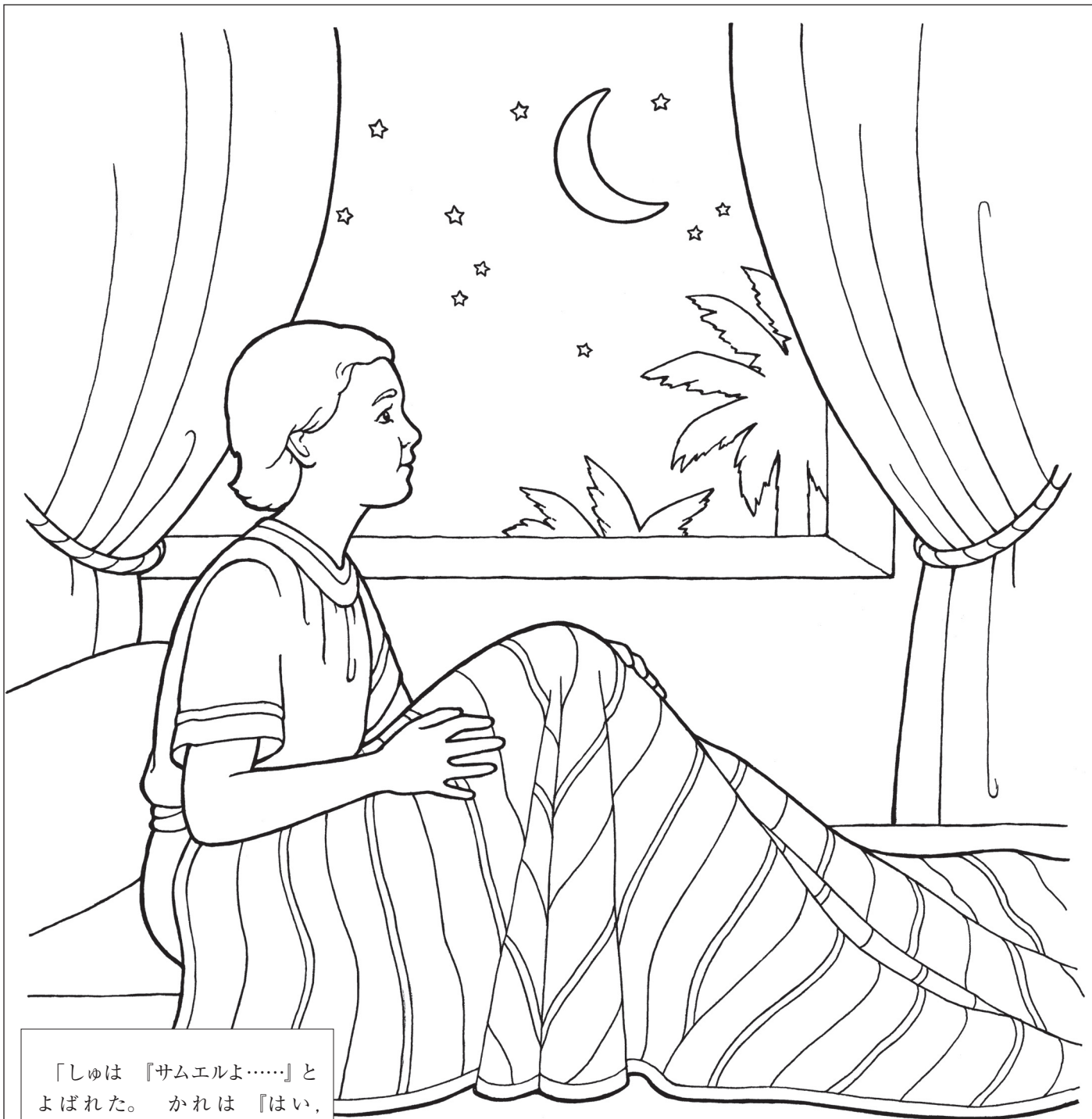


おいりの じゅんびを しましょう。

デボンは おいりの じゅんびを しな
なければなりません。 えを みて じゅんびが
できていれば、 えに まるを つけ、 まだ
じゅんびが できていなければ ばつを かき
ましょう。



しゅは サムエルを よばれた



「しゅは『サムエルよ……』とよばれた。かれは『はい、ここに おります』と いった。』(サムエル^{じょう}上3:4)

教会のニュース

チームと定員会を 一つにする御霊

教会機関誌

リチャード・M・ロムニー

今年の夏、アフリカから伝えられたすばらしいニュースの一つは、サッカーの話である。ただし、ワールドカップとは無関係だ。

今月、南アフリカでは世界中からサッカーのトップチームが集まり、ワールドカップの優勝を目指している。チームメイトは互いの、またコーチやファンの力に支えられて決勝トーナメントを目指す。各国の選手やファンの間には、あふれんばかりの団結心がみなぎっており、それを肌で感じることができる。

しかし、互いと、コーチやファンに対する忠誠心について際立っているチームがある。それは、南アフリカソウェトステーク、カギソワードの祭司定員会だ。ただし、彼らはワールドカップに出場するわけではない。1年余り前、祭司定員会の6人の若い男性

がサッカーチームのコーチから紹介されて教会に入った。コーチ自身も改宗したばかりだった。今や彼らは祭司定員会というもう一つのチームの有力なメンバーであり、もう一人の「コーチ」であるビショップと力を合わせて、日々福音を実践し、専任宣教師として奉仕するために準備している。

賢明な方法を選んだソロモンコーチ

南アフリカの多くの人々と同様、29歳のソロモン・エリヤ・ツマネ兄弟はサッカーが大好きだ。毎週何時間も根気強く、ハリケーンズ・サッカーチームを指導している。選手たちを愛し、彼らの成功を喜びとしている。選手たちもコーチを愛し尊敬している。このような関係が築かれていたため、ソロモンコーチが末日聖徒イエス・キリスト教会に入ったとき、選手たちは興味を抱いた。

「コーチはいつもインスティテュートのクラスから練習場へ直行していました」と言うのは17歳のマクドナルド・シヤブーレラ・マーニャカニャーカだ。同じく17歳のタペロ・ベンジャミン・セシニはこう言っている。「コーチのかばんに聖典や教会の雑誌が入っているのを見たぼくたちは、いろいろ尋ねるようになりました。するとコーチは聖句や記事を引用して、質問に答えてくれました。」

「この若者たちを心から愛しているのです、教えるわたしも熱が入りました」とソロモンコーチは言っている。「選手たちに正しい道を歩んでもらいたいのです。選手の一人にこう言いました。『聖典を読めば、きっと成功するよ。』そこで、全員が聖典を読み始めました。楽しんで読むようになったので、次は、祈りについて教えました。すると、ある日、驚くことが起きました。朝早くから練習があったので、昼寝をしていると、選手たちに起こされ、こう言われたのです。『コーチの教会へ連れて行ってください。』その日のことは決して忘れられません。そのとき彼らが正しい道を選んだことが分かったからです。」

親の承諾

しかし、コーチは親の承諾なしに、それ以上先へ



写真 リチャード・M・ロムニー
コーチのソロモン・ツマネ兄弟（中央）の模範に助けられて、
チームメイトのシヤブーレラ・マーニャカニャーカ、タペロ・セシニ、
エマヌエル・ペブ、ローレンス・ツェツェは教会に加入した。

進もうとはしなかった。選手一人一人の家を訪ね、選手を教会へ連れて行ってもよいかどうか尋ねた。両親の承諾が得られた。「ぼくたちは3週間続けて、教会へ通いました」とタペロは思い出している。「もっと多くのことを学びたいと思いました。」そこでコーチは再び両親に許可を求めた。今度は専任宣教師と一緒に勉強させてもよいか尋ねたのだ。両親は再び承諾してくれた。

「宣教師たちは一人一人にモルモン書をくれました」とマクドナルドは言っている。「モルモン書は真実なので、読んで、それについて祈るように言われました。ぼくたちはそのとおりにしました。ぼくは祈り、そして読んだ結果、モルモン書が真実であることが分かりました。」ほかの選手も同じようにして、それからバプテスマと確認の儀式を受けた。今ではチームの中で6人が末日聖徒である。

福音の目標

大半のチームはシーズンの優勝を目標に掲げる。しかし、この6人の若いハリケーンズのメンバーは、そう遠くない将来に向けてもう一つの目標を立てている。霊的なコーチとして慕っているボンガニ・マールビビショップの指導の下で、専任宣教師になるために準備しているのである。

「彼らはワードの大きな力となっています」とビショップは言っている。「世界中のアロン神権者と



メルキゼデク神権者とともに大きな神権チームの一員でもあります。彼らはあらゆることを一緒に行います。一緒に学校へ行き、サッカーをし、セミナーに出席し、神権者として奉仕します。一人の若者に手伝いを頼むと、6人全員がやって来ます。」また、祭司定員会は『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を定期的に勉強しているとマクドナルドは言っている。定員会のメンバーは友達を教会へ招待するだけでなく、お休み会員を捜し出しているとタペロは言っている。「こうしているいろいろな方法で宣教師になるために学んでいます。」

「証会^{あかし}でこの若者たちから証をよく聞きます」とビショップは言う。「彼らは専任宣教師になるとソロモンコーチにしばしば約束しています。」彼らのサッカーコーチにとって、これ以上にうれしいことはほかにないだろう。「彼らが伝道に出る日が待ち遠しいです」とソロモンは言う。

一致、福音の知識、奉仕の精神。これらはすべて、宣教師を目指している人にとって必須の訓練項目となる。さらに、これらの若者は力を合わせて善いことをしたいという崇高な願いをはぐくんできた。ワールドカップに出場して優勝をねらうサッカーチームのように、互いや、コーチ、ファン(ワードの会員や家族、友人)の力に支えられて、栄冠を勝ち取れるのである。このような団結心を持っている彼らは、目標を達成することだろう。■

コーチの改宗

多くのヤングアダルトがそうであるように、サッカーコーチのソロモン・エリヤ・ツマネも宗教について疑問を持っていた。「神はどのような御方であるのか、神はなぜわたしたちに祈るよう求めておられるのか、イエス・キリストはどのような御方か、またなぜわたしたちのために亡くなられたのか知りたいと思いました。よく分からなかったので、聖文、特に旧約聖書を勉強しました。

ある日、仕事からの帰り道で、二人の宣教師に会いました。イエス・キリストについて二人に質問しました。キリストの

ことを話す様子から、彼らがキリストを愛していることが分かりました。教会へ来るように勧められたので、行ってみました。すると、これはわたしが長年探し求めていたものだと告げる何かを心に感じました。

宣教師たちから祈るように言われました。また祈りは天の御父に話し、真理を見つける大切な方法であることを教わりました。わたしは宣教師から教えられたことを受け入れました。特に、一緒に聖文を読み、それについて祈ったとき、真実の福音であるということが分かりました。」■

生存者同士の 助け合い

教会機関誌
ライアン・クンツ

2009年9月末、台風ケツァーナに襲われたフィリピンの首都マニラと周辺地域は洪水に見舞われた。破壊はそれで終わらなかった。わずか8日後、フィリピン北部を台風パルマが通過したのである。台風パルマは引き返して来てそれから数日後、熱帯性低気圧に変わった後も、再び地滑りが起こり、さらに被害が増大した。

しかし、フィリピン周辺の聖徒たちは、また以前に通過した台風による被害の復旧に奮闘する聖徒たちでさえも、台風パルマの3度目と最後の通過を待たずに、被災者への支援を開始した。

被災を免れた物資を寄付する

9月末、マニラに近いパラニャケ市が台風ケツァーナに襲われた。その地域には4つのワードがあり、その中の一つのワードのビショップが、暴風雨が最も激しいときに、洪水で首の高さまであふれ出た水の中を、発泡スチロール製クーラーボックスのふたを浮き輪代わりにして、3家族を避難させた。翌日の聖餐会せいさんは取りやめになったが、被害に遭ったワードの多くの会員は自分たちも被災しているにもかかわらず、被災者へ与える食料や衣類を持って、パジャマや半ズボン、ジャケット姿で集会所に集った。約2時間後、ワード内のすべての家族への訪問、調査、援助が行われた。

多くの人が自分の村の残骸の間を縫うように歩いていた状況からわずか二晩後に、パラニャケ地域の会員たちは地元の集会所に集まり、自分たちが寄付し、仕分けして一つ一つ包んだ衣類を26の袋に詰めた。

「それはワードの多くの家族にとって、忘れられない家庭の夕べの一つとなりました」とフランコ・アドビインキュラビショップは述べた。

自分の家族も助けを必要としているある姉妹が、



フィリピン・アラミノス

フィリピンの
バンガシナン州では
台風による
洪水のため、
車は転倒するか、
または半分
埋まってしまった。
会員は、
自分たちも
被災者でありながら、
困っている人を
助けるために
手を差し伸べた。

自分たちも寄付したいがいつ届けたらよいかとビショップに尋ねた。「わたしはびっくりしてしまい、何と言ってよいか分かりませんでした」とビショップは述べた。「でも、この善良な姉妹から人助けをする機会を取り上げるべきではないという靈感を受けました。」

度重なる援助

ケツァーナがマニラ首都圏を襲ったとき、フィリピン・アラミノス地方部会長のボルフェリオ・バルーテ・ジュニアは、地方部の会員たちに南部の隣人たちを助けるよう求めるべきだと感じた。しかし、アラミノス地方部の多くの会員たちは、4か月前の2009年5月に地域を襲った台風エモンからまだ復旧の最中だった。フィリピン西部のこの都市を襲った台風としては最大級の被害を与えた台風である。多くの会員は漁業や農業で生計を立てており、直後に起きた洪水のために生活が破壊されていた。

バルーテ地方部会長は、復興に向けて悪戦苦闘している人々にあまり負担をかけたくなかったが、とにかく支援を求めた。

その日の午後、会員たちは衣類21袋、食料

1袋、1,500フィリピンドルを携えて集会所に集まった。

1週間後に台風パルマが今度は北部を襲ったとき、アラミノス地方部の会員たちは再び支援に立ち上がり、さらに多くの衣類と食料、義援金を集めた。中には、ボランティアとして救援物資を直接配るための時間を提供した人もいた。

「わたしたちはただ助けたかったのです」とバルーテ地方部会長は述べた。「これほど多くが寄せられるとは、予想もしていませんでした。わたしたちの信仰が増し、^{ほらから}同胞への愛が^{あかし}広がり、証が強められ、救い主の愛と贖いに対する理解が深まりました。」

無私の心と楽観的なものの見方

「永代教育基金」プログラムで妻とともに奉仕するケンダル・エアーズ長老は、救援物資の配給を監督し手配する任務を与えられた。救援活動におけるフィリピンの聖徒たちの団結についてこう語っている。

「最も多く失った人々が、同じように大きな被害を受けた人々に心に向けて支援することに安らぎを見いだしていることを知って驚きました。『自分の命を失う者は、それを見いだす』という原則をこのような方法で実践するのを見たのは初めてでした。わたしにとって、それはもはや単なる宗教上の観念を超えた現実です。救援活動への参加について、必要を上回る申し出があります。どっと寄せられる物資と支援活動は、理解を超える、思いがけない出来事でした。」

「フィリピン人はたいがい、立ち直りがとても早いです」とフィリピン地域の地域七十人であるベンソン・ミサルチャ長老は語った。コップの中の水が半分も入っていると、半分しか入っていないのではなく、「コップを眺めながら『水が入ってなくても、すばらしいコップだ』と言うのです。」■

家族歴史サポート宣教師

昨年、教会が新しいファミリーサーチ・プログラムを発表してから、多くの教会員が初めてこの新しいシステムを試している。

プログラムに慣れていない人や家族歴史全般について質問がある人をサポートするために、教会はワールドワイド・ファミリーサーチ・サポートなど様々な支援を実施してきた。

ファミリーサーチ・サポート・プログラムは2005年、家族歴史作業を手伝う数人のボランティアによって始められた。その後、このプログラムは世界各地でほぼ1,200人のボランティアのサポート宣教師が作業に携わるまでに拡大している。

サポート宣教師は世界34か国で、数十の言語を対象として、家族歴史に関する広範囲な質問に対応する支援を複数の時間帯にまたがって提供している。

2008年8月からフィリピンでサポート宣教師として働いているセリシア・ディマラルアン姉妹は、家族歴史に関する知識をほかの人と分かち合う機会を楽しんでいる。フィリピンでサポート宣教師として訓練を受けた最初のフィリピン人の一人として、セブアノ語、英語、タガログ語を話すディマラルアン姉妹は、教会員であるなしを問わず、インド、マレーシア、ミクロネシア、モンゴル、シンガポールなどの周辺地域出身の人々

が基本的な家族歴史の原則を学ぶのを助けている。

サポート宣教師は、通常30か月奉仕するよう召される。全員、自分の家または地域の家族歴史センターで働く。家族歴史センターはサポート宣教師のためにプログラムの訓練と日常のサポートを施している。サポート宣教師は電話または電子メールで質問に対応する。サポート宣教師は世界各地にいるため、日曜日の午前中を除き毎日24時間、だれかが対応できるのである。

「世界中の英語を話す利用者に奉仕し、家族歴史の業を助けることができるのでうれしく思っています」と、合衆国ユタ州プレザントグローブのコーニー・チェニー姉妹は語る。彼女は、現在ワールドワイド・サポートで2回目の奉仕に携わっている。

サポート宣教師に連絡する最も容易な方法は、インターネットでfamilysearch.orgにアクセスするか、support@familysearch.orgへメールを送るかのいずれかである（訳注——日本でのメールアドレスは、JapaneseSupport@familysearch.org）。

ファミリーサーチ・ウェブページには、世界各地のサポート宣教師に連絡するための無料電話番号が掲載されている。

インターネットが利用できな

い地域では、地域の家族歴史宣教師に連絡するか、ワードまたは支部の家族歴史相談員に話すか、あるいは地元の家族歴史センターを訪問するとよい。

ローレン・アラン, 教会機関誌 ■

奉仕に**関心**がありますか？

家族歴史サポート宣教師の奉仕に関心のある方は、familysearch.org にアクセスするか、support@familysearch.org へメールを送るか、または地元の神権指導者に尋ねることにより、さらに詳しい情報を入手できる（訳

注——日本でのメールアドレスは、JapaneseSupport@familysearch.org）。

宣教師となるには、パソコンおよび高速インターネットにアクセス可能で、家族歴史作業の経験が必要である。■

中国語と韓国語の聖典がオンラインで閲覧可能に

教会はインターネットの末日聖典に新たに二つの版を追加した。韓国語版は2009年10月に、中国語版（繁体字）は12月に追加された。韓国語版は2009年10月に scriptures.lds.org/ko

で、中国語版は12月に scriptures.lds.org/ch で閲覧可能である。

韓国語と中国語の聖典サイトには、合本（モルモン書、教義と聖約、高価な真珠）、および「聖句ガイド」（これには多数の有益

な学習資料や福音のテーマに関する辞書順リストが含まれる）が掲載されている。日本語、セブアノ語、タガログ語版の聖典は2010年にオンライン化する予定。■

神殿ニュース

ユタ州の新しい神殿が発表される

1月、トーマス・S・モンソン大管長はアメリカ合衆国ユタ州ペイソンに新しい神殿を建設すると発表した。同地域における会員の増加に対応し、教会で最も利用者の多い神殿の一つであるユタ州プロボ神殿の混雑を緩和する。ユタ州では15番目の神殿となる。これで、儀式がすでに行われているか、または計画・建設段階の神殿の総数は152となる。

アリゾナ州で奉獻された神殿

アリゾナ州ギラバレー神殿のオープンハウスが2010年4月23日から5月15日まで行われた。2010年5月22日には祝賀会が開かれた。続いて5月23日に奉獻式と3回の奉獻セッションが行われた。同神殿は2008年4月に建設が発表された。合衆国アリゾナ州で3番目の神殿となる。

セブ神殿の奉獻

フィリピン・セブ神殿が2010年5月21日から6月5日まで一般公開される。続いて6月12日に祝賀会、6月13日に奉獻式が行われ、3つの奉獻セッションがフィリピン各地で放送される。儀式の執行は翌日からとなる。同神殿は2006年4月18日に建設が発表され、フィリピンで2番目の神殿となる。儀式が行われている神殿としては世界で133番目となる。■



読者からの便り

すばらしい年が始まる

新しくなった『リアホナ』が大好きです。記事が年齢別にまとめられている点、特に青少年のセクションが気に入っていて、とても役に立っています。新しいセクションはどれも良いのですが、「インターネットで得られる追加情報」が特に好きです。すばらしい年になることを、楽しみにしています。

ローランド・T、17歳
(フィリピン、パンガシナン州)

御霊を感じました

今日、新しい『リアホナ』を読んで、御霊を強く感じました。わたしは若い女性の会長です。新しいレイアウトを見たとき、天の御父が青少年に対して大きな関心を持っておられることが分かりました。青少年に的を絞ったセクションがあるからです。この変更によってわたしの家庭、若い女性、世界中の会員たちが祝福を受けると思います。

シャニン・バルマ・サンウエザ(チリ)

最良の雑誌

数年前、教会の購読機関誌をすべて『リアホナ』に切り替えました。『リアホナ』はわたしにとって最良の機関誌であり、世界的な視野を与えてくれました。でも、レイアウトが分かりにくいページが幾つか見られました。

今回『リアホナ』が新しくなり、レイアウトについて感じていた問題はすべて解決されました。それに、内容が前よりの的を絞った充実したものになりました。これからも、これまで以上に、『リアホナ』が福音の個人学習に欠かせないものになるでしょう。

ラリー・D・クンプ
(アメリカ合衆国ウェストバージニア州) ■

家庭の夕べのためのアイデア

今月号には、家庭の夕べで活用できる記事や活動が載っています。以下に幾つか例を挙げます。

「**岩の上に建てる**」12ページ——記事を分かち合った後、「この教会がキリストの岩の上に建てられ、また、直接的な絶えざる啓示という原則の上に建てられているということです」の意味について話し合うとよいでしょう。絶えざる啓示について、総大会から例を見つけてください。

「**現在のことをありのままに**」22ページ——記事を読んでから、あなたの家族の必要に合った部分を祈りの気持ちで選ぶとよいでしょう。この記事をも2回のレッスンに分けてもよいでしょう。

「**人生の使命を果たす時は今**」42ページ——家族の一人に**交差する**とはどういうことかを説明してもらいます。記事の中の「日々の使命」というセクションを読み、自分やほかの人が「だれかの必要」に気づき、それを満たしてあげることができた経験について、家族に分かち合ってもらおうとよいでしょう。

「**カンニングするべきか、せざるべきか**」50ページ——この話を家族と分かち合ってから、「不正をしないことを選ぶのはもう難しくありません。……もう決心したからです」という言葉を強調します。前もって決意しておく、正しい行いをするのが易くなるのはどうしてかという質問について話し合うとよいでしょう。

船を造る

預言者ニーファイの経験について勉強したことによって、ニーファイを尊敬する気持ちが強くなりました。特に、船を造ったときのニーファイの、自分に厳しく最後まで努力を続ける姿に感動しました。主が船を造るよう命じられたことに賢明な目的があったことが分かりました。



1997年にゴードン・B・ヒンクレー大管長(1910-2008年)がグアテマラを訪れたとき、特に心を打たれた勧告は、家庭の夕べを開くようにという単純な励ましでした。預言者の言葉に動かされ、妻と4人の子供と一緒に集まって、「家庭の夕べという船を造る」という目標を立てました。それには努力がいることは分かっていたのですが、同時に主がそう言われるには賢明な目的があることを理解していました。

何年にもわたって、何百回もの家庭の夕べを開いてきた結果、わたしたちの家族の家庭の夕べという船は、家族の成長とともに大きくなりました。そして、ヒンクレー大管長が約束されたとおりのことを経験してきました。定期的に、不屈の努力によって開いたこれらのささやかな集まりの積み重ねにより、すばらしいことが起きたのです。両親への愛が深まりました。きょうだい同士の愛が増しました。天の御父と救い主に対する愛が大きくなりました。単純で善良なものに対する感謝の気持ちで心が満たされるようになったのです。(ゴードン・B・ヒンクレー「少年時代の教訓」『聖徒の道』1993年7月号、60参照)

ロニー・サウル・ガルシア・メンデス
(グアテマラ) ■

透けて見える**逆境**

フェリペ・ウルピナ

わたしは、バスの中で見たハチの行動から、あることに気づきました。それは、問題を切り抜ける方法は必ずあるものの、そのためには確かな見通しを持った御方を信頼する必要があるということです。

ある日出勤の途中バスに乗り込んだわたしは、窓際に座りました。間もなくして小さなハチが必死に窓の外に出ようとしているのに気づきました。二枚の窓枠に阻まれて、幾らもがいても出られない様子でした。透明な牢ろうに閉じ込められたかのように、自由な世界を目の前にしながら、逃げ道を見つけられずにいたのです。恐らくパニック状態になっていたのでしょう。けたたましく羽をばたつかせて窓ガラスに体を打ち付けていました。

人や物が傷つくの黙って見ていられない性分のわたしは、しばしハチの行動を見ていましたが、何とかハチを外に出してやろうと試みてみました。ところが、わたしの思いも知らず信じようもしないハチは、わたしの助けを受けようとはせず、ただひたすら窓にぶつかり続けていました。やがてわたしは少しいらいらしてきました。

そうこうしているうちに、わたしたち人間も同じような状況に陥るということに気づき始めました。人は時として自分に何の落ち度がなくても窮地に追い込まれることがあります。また、過ちを犯すこともありますし、それが重大な罪である場合もあります。そのようなとき、わたしたちはあのハチのように、まるで八方ふさがりのような気になるものです。わたしたちが試練を乗り越えるには何が必要かを主は御存じですが、残念なことに、わたしたちは主に心向けず、困った



絵／ヨージ・コロッコ

ときの助け手として主に召された指導者に助けを求めないことがよくあります。御みな霊のささやきに聞き従おうとせずに、自分で何とかしようともがくのです。より広い視野を持った人々に頼ろうともしません。

しかし、末日聖徒であるわたしたちは、逆境をどのように乗り越えればよいかを知っています。わたしたちには聖典があり、祈り、絶えず聖霊の導きを受けることができます。またわたしたちには主から召された指導者がいて、いつでも喜んで助けの手を差し伸べてくれます。

わたしがバスを降りる前に、あの小さなハチはさんざんあがいた末に、やっと窓の外に出ることができました。この経験から、天の御父とその御子イエス・キリストに心に向け、信じるならば、苦しみも軽減され、試練を乗り越えられることを学びました。わたしたちが受ける試練はすべて御二方にははっきり透けて御覧になれるからです。■



キリストの言葉

「キリストと中風の者」^{ちゆうふう} J・カーク・リチャーズ画

カペナウムの人々が救い主を見るために集まっていた。非常に大勢の人がいたので、中風の者は屋根からつり下ろされなければならなかった。

「イエスは彼らの信仰を見て、中風の者に、『子よ、あなたの罪はゆるされた』と言われた。」

それからイエスは疑い深い律法学者たちに言われた。『中風の者に、あなたの罪はゆるされた、と言うのと、起きよ、床を取りあげて歩け、と言うのと、どちらがた

やすいか。

しかし、人の子は地上で罪をゆるす権威をもっていることが、あなたがたにわかるために』と彼らに言い、中風の者にむかって、

『あなたに命じる。起きよ、床を取りあげて家に帰れ』と言われた。

すると彼は起きあがり、すぐに床を取りあげて、みんなの前を出て行ったので、一同は大いに驚き、神をあがめ[た]。』(マルコ2:5, 9-12)



インターネットはわたしたちを
現実から遠ざけようとしませんが
（「現在のことをありのままに」22ページ参照）、
ふさわしく使うなら、
有益で霊を高めてくれるサイトにつないでくれます。
教会の公式サイトでは、
福音を学び、賛美歌を聞き、自立について学び、
家族歴史を調べることができます。
「正しいインターネット活用法」18ページ参照

